

はじめに

このたびは、シバウラグリーンモアをお買い上げいただきありがとうございました。お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。この取扱説明書に記載されている機械については、一定の原則のもとに警告表示が用いられています。その原則をご理解の上、機械を操作してください。

警告表示の原則

警告表示には

警告表示：守らないとケガなどの危険が起こる可能性があるため、作業者に注意を呼びかける表示。

禁止表示：作業者だけでなく、表示されている行為や作業が、**全ての者に禁止**されていることを示す表示。

義務表示：作業者が作業する際、**必ず守らなくてはならない**ことを示す表示。

の3種類があります。それぞれの説明を以下に示します。

警告表示



危険

・その警告文に従わなかった場合・死亡または重症を負うことになるものを示します。



警告

・その警告文に従わなかった場合、死亡または重症を負う危険性があるものを示します。

重要

・その警告文に従わなかった場合、機械の性能が損なわれる可能性があるものを示します。

注意

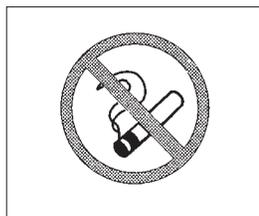
・その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。
・その警告文に従わなかった場合、刑事罰か改修費用を負う可能性があるものを示します。

禁止表示

機械の操作をする上で、絶対に行ってはならない操作や行為が、禁止記号「⊘」と共に記載してあります。イラストと共に使用する場合と、記号化した図柄を表示する場合があります。



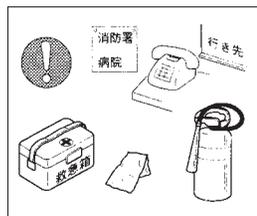
イラストと共に表示している例



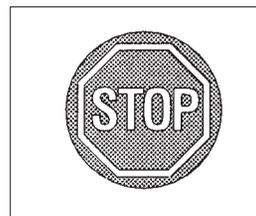
記号化した図柄で表示した例

義務表示

機械の操作をする上で、必ず守ることが義務づけられている操作や行為が義務表示記号「①」と共に記載してあります。イラストと共に使用する場合と、記号化した図柄を表示する場合があります。



イラストと共に表示している例



記号化した図柄で表示した例

本製品の使用について

警告

- ・この取扱説明書（以下、本書とよぶ）で解説している芝刈機 G-FLOW22（以下、本機とよぶ）はゴルフ場の芝刈を目的とした機械であるので、本機の目的外である土手や、山間地の急斜面での草刈作業など、本機の能力を超えた目的に使用しないでください。
- ・本機の点検・整備・保守に関する部分以外を、勝手に分解したり、弊社の許可を得ない改造をしないでください。
- ・本機を貸与するときは、借りる本人に十分な指導と訓練を行い、必ず本書と共に貸与してください。
- ・貸与を業務とする場合は裏表紙「本書の請求先」に記載の営業所・販売店に、本書の予備を請求し万一の紛失に備えてください。本書の予備はコピーであってははいけません。本書は改良のため改訂する場合がありますので、購入時のものを予備として用意してください。
- ・本機を譲渡する場合、必ず本書と共に譲渡してください。
- ・本機に添付してある警告ラベルが破損・汚濁し判別が困難になった場合は、裏表紙に記載の営業所・販売店に、新しいラベルを請求し、本書2ページ「ラベルの添付位置」に従い新しいラベルを添付し、常に判読出来るよう維持してください。
- ・必ず「本書の請求先」をメモし、いつでも取出せ、紛失の恐れのない場所に保管し、本書の紛失に備えてください。

重要

- ・本書に「毎日」と指示のある点検を必ずおこない、故障の発生を未然に防いでください。これら「日常の点検」を怠ったことにより発生する故障については一切保障されません。

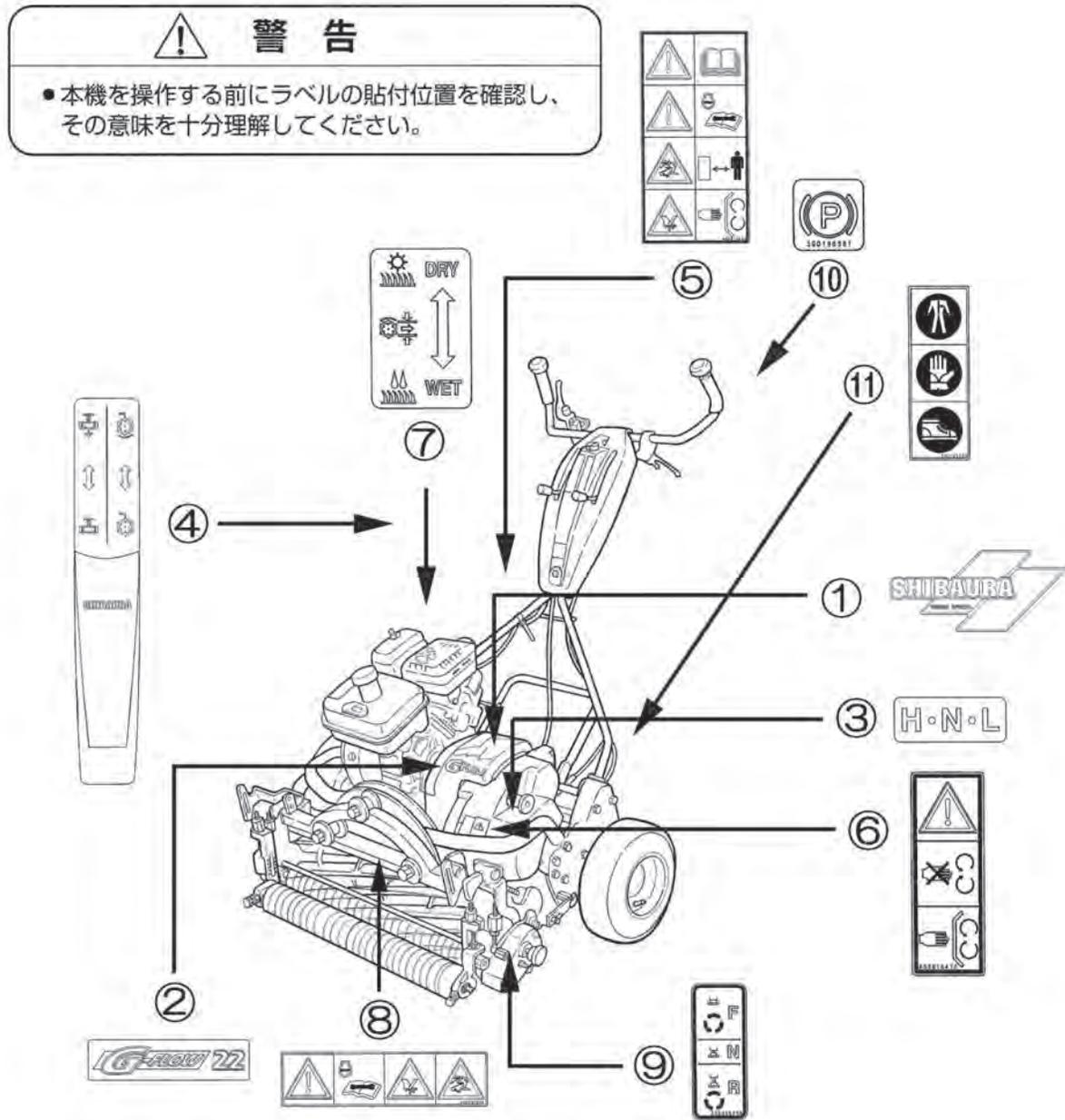
注意

- ・交換した排油は、絶対に川や下水道などに流したりせず、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

目次

1. ラベル及び警告ラベル	2
■警告ラベルの説明	3
2. 各部の名称	4
■各部の名称と機能	5
3. 操作前の注意	6
■万一のケガに備えて	6
■機械の点検、整備、保守作業は、必ずエンジンを停止する	6
■機械の点検、整備、保守作業は、必ずエンジンが冷えてから	6
■芝刈機の走行時、作業時には必ずバケットを装着する	7
■傾斜が10°以上のところでは作業しない	7
■芝刈機は子供に操作させない	7
■体格に合わない場合は調整を依頼する	7
■燃料の取扱いには十分な注意を	8
■エンジンの始動は必ず屋外で	8
■作業中に異常な振動を感じたらエンジンを停止する	9
■車両への積みおろしにはエンジンを停止して	9
■作業現場の下見をする	9
■芝刈作業、エンジン走行は基本姿勢を守って	10
■作業に適した服装をする	10
■冷えと振動について	11
■薬物の影響のある人や酒気を帯びた人に操作させない	11
4. 操作前の準備	12
■バケットの装着方法	12
■スタンドの立て方と搬送用タイヤの着脱	12
■燃料の補給	14
■エンジンオイルの点検／交換	15
■ブレーキと主クラッチ、刈刃クラッチの作動チェック	17
5. 操作	19
■エンジンの始動と停止	19
■芝刈機の搬送	21
■車両による搬送	22
■芝刈作業までの操作	23
■芝刈作業	25
6. 調整	26
■切れ味の調整	26
■刈高さの調整	28
■作業ローラーの調整	29
■ラッピング（刈刃の研磨）による切れ味の調整	30
■各部の調整	32
7. 保守	37
■点火プラグの点検と交換	37
■主クラッチの整備	37
■芝刈機本体の清掃	38
■エアークリーナーの清掃	38
■ストレーナの清掃	39
■燃料フィルターの清掃	39
■リールユニットの着脱	40
■下刃台の着脱	41
■刈刃の着脱	42
■エンジンの着脱	43
■長期保管	44
■グリース補給	45
8. トラブルと対処	46
9. 特長・仕様緒元／機種構成／付属品／オプション	47
■特長	47
■刈取り位置による芝生への影響	48
■仕様緒元	49
■機種構成	49
■付属品	49
■オプション	50
■消耗部品	50
■燃料・オイル・グリスについて	50

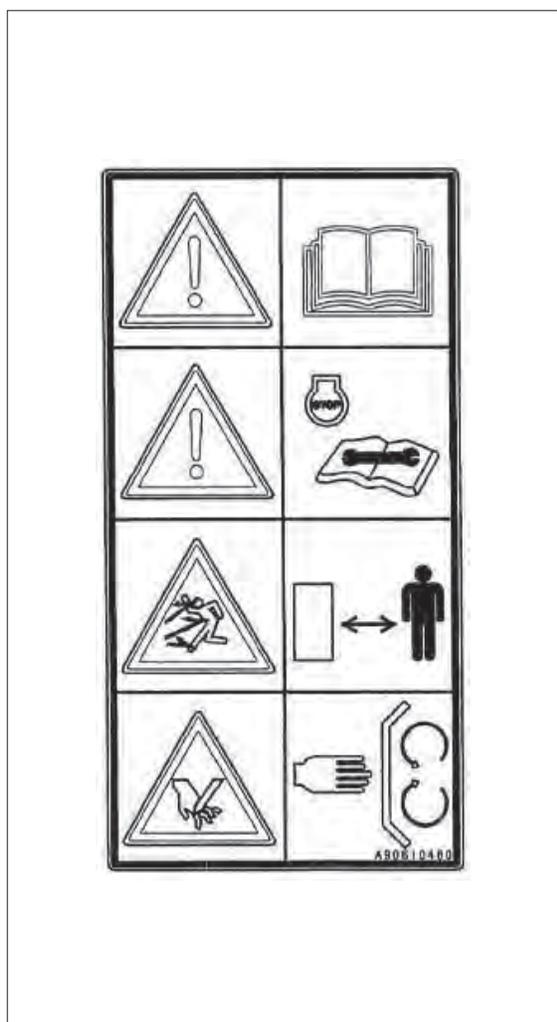
1. ラベル及び警告ラベル



No	部品番号	部品名称	個数	意味
①	A90110190	ラベル；シバウラマーク	1	会社名を示す
②	A90110220	ラベル；G-FLOW22	1	機種名を示す
③	A90360290	ラベル；シャソク	1	車速を示す（L＝遅い，N＝中立，H＝早い）
④	A90360300	ラベル；クラッチ	1	レバー位置の状態を示す（上＝入り，下＝切り）
⑤	A90610460	警告ラベル；ゼンパン	1	次ページ参照
⑥	A90610470	警告ラベル；ベルト	2	次ページ参照
⑦	A90360310	ラベル；シャフウバンシジ	1	芝の状態による遮風板の位置を示す（DRY＝乾燥，WET＝湿潤）
⑧	A90630080	警告ラベル；リール	1	次ページ参照
⑨	A90360350	ラベル；サギョウキクラッチ	1	作業機の回転方向を示す（正転・停止・逆転）
⑩	390198361	ラベル；パーキング	1	駐車ブレーキの位置を示す
⑪	390199530	ラベル；サギョウフク	1	作業時の服装を示す

■ 警告ラベルの説明

- 危険個所の近くには警告ラベルが添付されています。必ずその意味を十分理解し使用してください。



⚠ 警告

- 必ず取扱い説明書を読み、理解した上で使用すること。

⚠ 警告

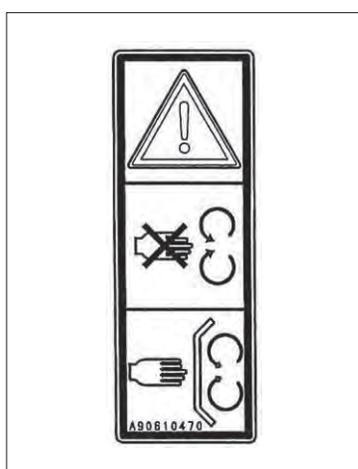
- メンテナンス作業を行う場合は、取扱い説明書を理解し、必ずエンジンを停止してから行うこと。

⚠ 危険

- 作業者以外は機械から十分な距離を保つこと。飛散物により事故の可能性あり。

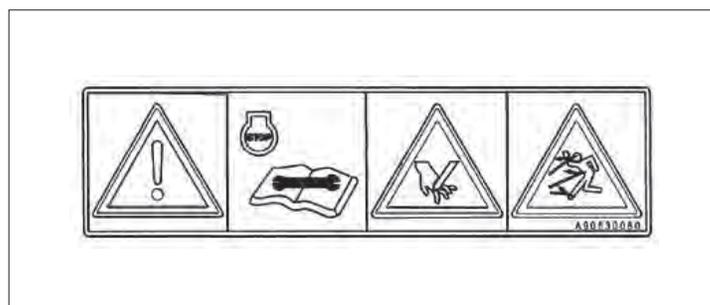
⚠ 危険

- カバー類は必ず取付けること。手足が巻き込まれる事故の可能性あり。



⚠ 危険

- カバー類は必ず取付けること。手足が巻き込まれる事故の可能性あり。

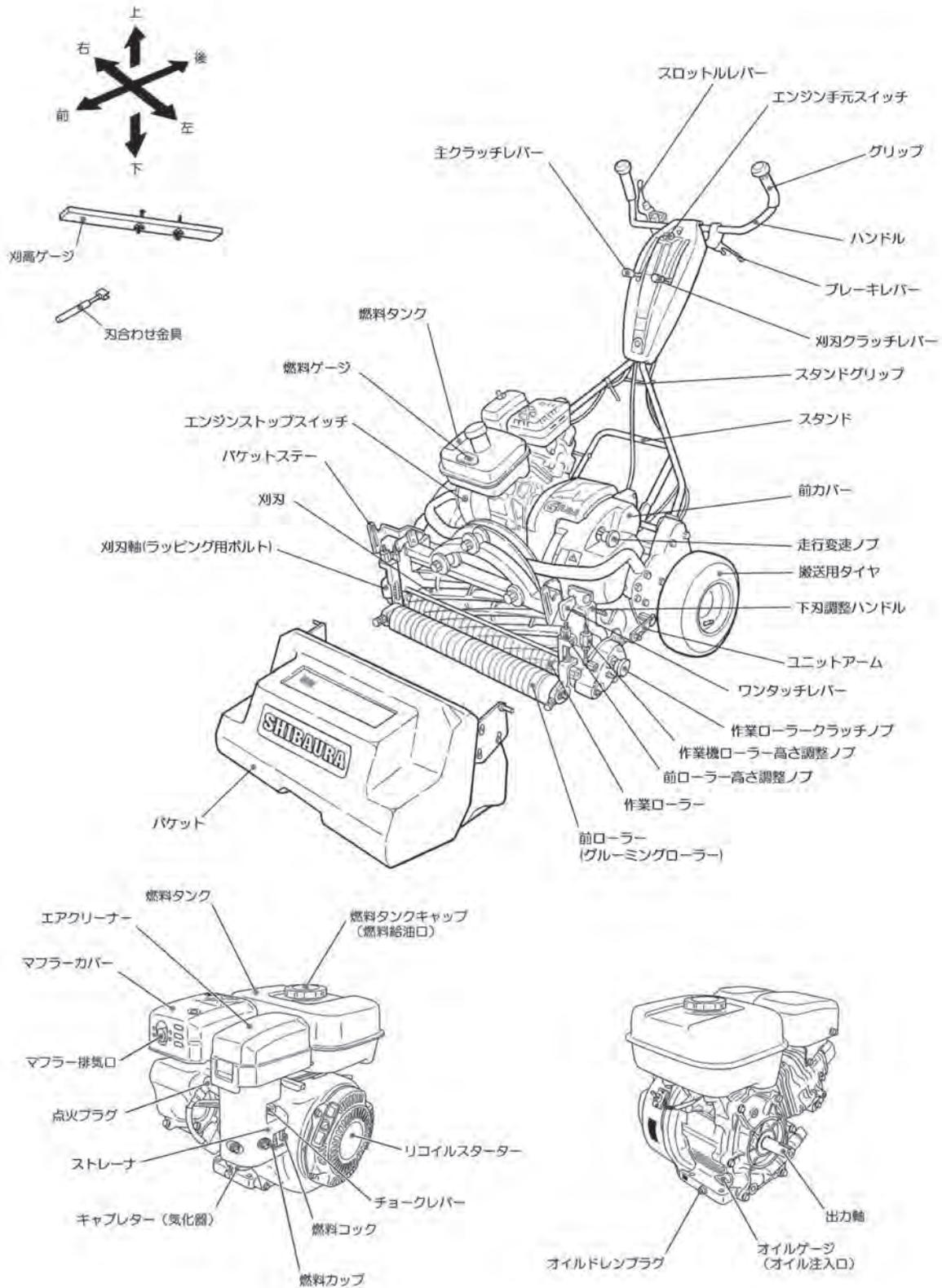


⚠ 危険

- 飛散物・手足の巻き込まれによる事故の可能性があるので、メンテナンス時には必ずエンジンを停止すること。

2. 各部の名称

- 本書では、機械の前後、上下、左右は図中左上に矢印で示す方向で解説しています。
- 本書では下図に示すグルーミング仕様を基準に解説しています。
()内に示す名称は図示されていないことを表します。



■ 各部の名称と機能

名 称	機 能
ハンドル	●グリップを握り、作業中の機械の姿勢の維持や方向転換を行なうのに使用します。
グリップ	●機械を操作する時に握る部分です。
ブレーキレバー	●ブレーキを作動し芝刈機本体の進行を止める時に使用するレバーです。
スタンドグリップ	●スタンドを立てる時とはずす時に握る部分です。
スタンド	●搬送用タイヤを着脱する時に使用し、前ローラーと芝刈機本体を支えます。
フロントカバー	●動力を伝えるクラッチ・ミッションのカバーで作業者の巻き込み事故を防止します。作業中は絶対に取り外さないでください。
刈刃クラッチレバー	●刈刃の「作動」と「停止」の切り替えを操作するレバーです。
後ローラー	●搬送用のタイヤを取り外した後、作業中、走行に使用するローラーです。
下刃調整ハンドル (左)、(右)	●下刃と刈刃の間隔を調整するハンドルです。左右あります。
搬送用タイヤ	●本機を作業現場まで搬送する時に使用するタイヤです。
刃合わせ金具	●刈刃を手動で回転させる時に使用する道具です。
刈刃軸	●ラッピング作業をする時のボルトです。
作業ローラー高さ調整ノブ (左)、(右)	●作業ローラーの地面からの高さを調整するノブです。左右にあります。
前ローラー高さ調整ノブ (左)、(右)	●前ローラーを上下させ、刈高を調整するのに使用するノブです。
前ローラー	●刈刃を地面から一定の高さに保ち、芝生を地面から決められた高さに刈り揃えるためのローラーです。
作業ローラー	●枯芝を除去し、芝目をそろえて刈刃に送り込むローラーです。 グルーミングカッター、サッチングリール、ブラシールルの3種類があります。
刈刃	●芝を刈るための刃です。
作業ローラークラッチノブ	●作業ローラーの「正転」「止まる」「逆転」の切り替えを操作するノブです。
エンジン手元スイッチ	●エンジンの始動と停止を切り替えるスイッチです。エンジンを「始動」する時は『ON』、「停止」する時は『OFF』の位置に切り替えます。
燃料ゲージ	●燃料タンクの中の燃料の残量を確認するための目盛りです。
燃料タンク	●燃料が入っている容器です。
主クラッチレバー	●エンジンの動力を各部に伝え、「作動」「停止」の切り替えを操作するレバーです。 このレバーが「作動」の位置にないと刈刃、作業ローラーは回転しません。
スロットルレバー	●エンジンの回転数を調整するためのレバーです。
バケット	●刈くずを収集するほかに、刈刃や機械本体が不用意に人体に接触するのを防ぎます。
ワンタッチレバー	●リールユニットの着脱時に使用します。
バケットステー	●バケットを保持します。リールユニット着脱時にも使用します。
燃料コック	●燃料の供給を操作するツマミです。
リコイルスタータ	●ハンドルを引いてエンジンを始動する時に使用します。
ストレーナー	●燃料に混入した空気やゴミを除去、沈澱します。
エアークリーナー	●エンジンが吸入する空気にチリやゴミが入るのを防ぎます。
マフラー (消音器)	●エンジンの爆発音を小さくする装置です。
チョークレバー	●冷えたエンジンを始動する時、燃料混合気を濃くするのに使います。
オイルゲージ	●目盛りがついており、エンジンオイルの残量や汚れの点検に使用します。
刈高ゲージ	●2ヶ所のネジで刈高をセットし、前ローラーと後ローラーに当て、前ローラーと作業ローラーを規定の高さに固定する時使用するゲージです。

3. 操作前の注意

■ 万一のケガに備えて

- 電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を一覧表にし、掲示しておいてください。
- 消防署への連絡の場合、日頃から作業することの多い現場への目標物（住所、建造物など）を一覧表にしておく、緊急の場合的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、誰でも、その現場が明確にわかるよう、現場のメモを黒板などに記入することを習慣づけてください。事故の発生により帰れなくなった場合に有効です。
- 作業現場には必ず救急箱と余分な手ぬぐいやタオルを持参してください。手ぬぐいやタオルは応急の止血用品として有効です。
- 地域の消防署や消防団では応急処置の講習や訓練で、その技能と知識の普及につとめています。それらの機会を逃さず受講し、日頃から応急処置にたいする技能、知識を身につけるようにしてください。

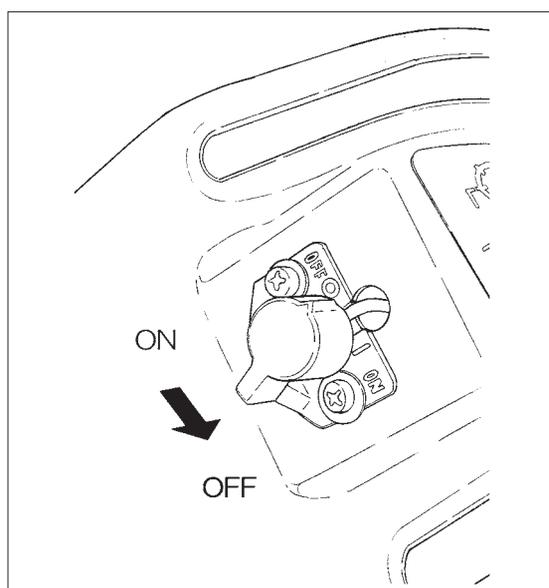


■ 機械の点検、整備、保守作業は、必ずエンジンを停止する

⚠ 警告

- 点検、整備、保守作業の際は必ずエンジンスイッチを切り、刈刃の回転が停止していることを確認してから行なってください。
- 芝刈作業中に点検、整備、保守作業を行わないでください。回転中に物が挟まり停止した刈刃部分は、挟雑物を取り除いた瞬間に回転し、重大な事故の危険性があります。

- 芝刈作業中は点検、整備、保守作業をしないでください。
- 十分な工具と設備を整え、エンジンが完全に冷えてからこれらの作業を行なってください。



■ 機械の点検、整備、保守作業は、必ずエンジンが冷えてから

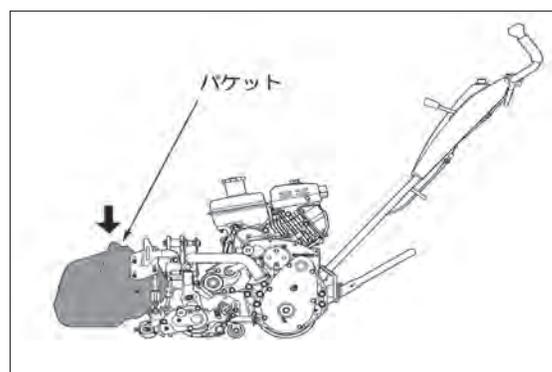
⚠ 警告

エンジン停止直後にエンジンやマフラー（消音器）など高温部分に触れないでください。
温度によっては重度の火傷を負うことがあります。

■ 芝刈機の走行時、作業時には必ずバケットを装着する

警告

- 本機のエンジンを始動し走行する際には、必ずバケットを装着してください。
バケットは、刈刃や機械本体が不用意に人体に接触するのを防ぎます。

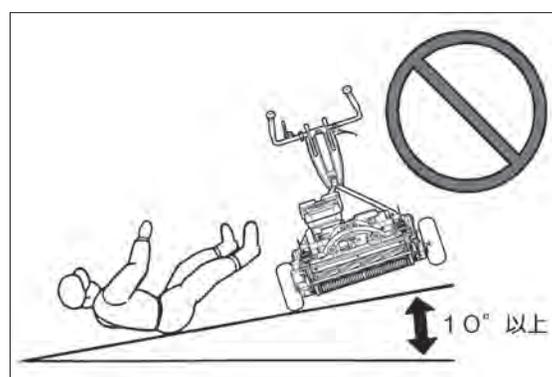


- 本機のバケットは刈くずを収集するほかに、自動車のバンパーに相当する役目があります。
- 万一の事故を防止するため、エンジン始動時には必ずバケットを装着してください。

■ 傾斜が10°以上のところでは作業しない

警告

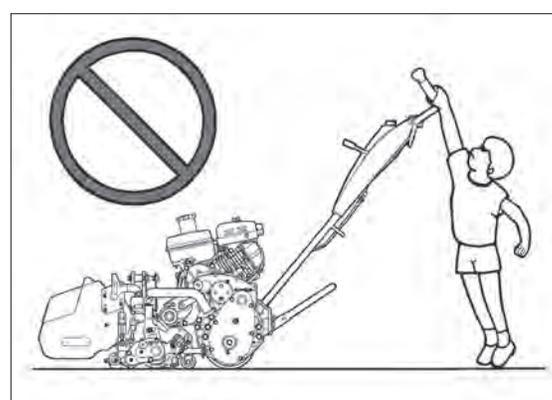
- 地面の傾斜が10°以上の場所では本機による芝刈作業をしないでください。転倒、スリップによる事故の可能性あります。



■ 芝刈機は子供に操作させない

警告

- 本機の作業は子供には行なわせないでください。
- その他、訓練の経過をみて機械の制御に向いていない人には操作させないでください。



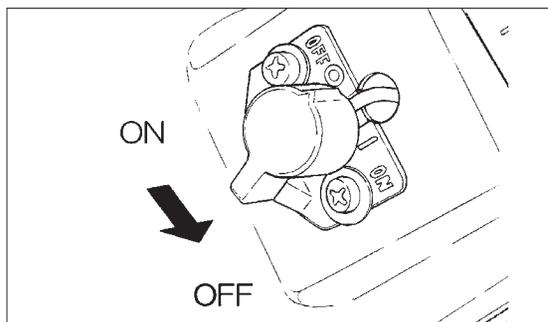
■ 体格に合わない場合は調整を依頼する

- 本機は、体格に合わせ操作しやすいようにハンドルの高さの調整(34ページ「ハンドル高さの調整」を参照してください。)が可能です。それらの調整を行なっても、作業上支障がある場合は、営業所、または販売店に連絡し、適切な調整をご依頼ください。

■ 燃料の取扱いには十分な注意を

⚠ 危険

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止してから行なってください。
- 燃料の取扱中、燃料のそばで喫煙したり、裸火を扱わないでください。
引火、爆発により死にいたることがあります。
- 燃料の補給や保管は消防法の規準に適合した施設で行なってください。
- プラスチックの容器などに小分けして保管したり、小分けした容器から給油しないでください。
静電気による引火や発火の危険があります。
- こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- 燃料保管場所と作業場所を区別し、燃料のそばでエンジンを始動するなど引火の可能性のある作業をしないでください。
- 燃料保管場所には油火災用の消火器をそなえてください。



- 本機の燃料は揮発性が高く引火による火災や火傷の危険があります。取り扱いには必ず上記各項目を守ってください。

■ エンジンの始動は必ず屋外で

⚠ 危険

- エンジンの始動は通気の良い屋外で行なってください。
- エンジンの排気ガスには人体に有害なガスが含まれており、場合によっては死にいたります。



- エンジンの排気ガスには一酸化炭素などの有毒な物質が含まれています。
- エンジンを始動する場合は換気に気をつけ、密閉されている屋内や、換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。

■ 作業中に異常な振動を感じたらエンジンを停止する

⚠ 警告

- 作業中、原因のわからない振動が起きた場合、ただちにエンジンスイッチを「OFF」にしてください。エンジンの破損や刈刃の破壊などにより、飛散物、高温のオイル、ガスが身体を傷つける場合があります。



■ 車両への積みおろしにはエンジンを停止して

⚠ 警告

- 本機をトラックなど運搬用車両に搭載して搬送する場合、エンジン駆動により走行させ搭載してはいけません。万一操作を失敗した場合重大な事故の原因となります。

- 本機をトラックなどの運搬用車両に搭載し搬送する場合、積みおろしには必ず2名以上で、ブレーキを活用しながら行なってください。(22ページ「車両による搬送」を参照してください。)



■ 作業現場の下見をする

⚠ 警告

- 作業前に作業現場の下見をし、小石や固いゴミなど刈刃が巻き込む可能性のある物を除去してください。刈刃に巻き込まれると周囲に飛散し、作業者や作業監督者などを傷つける場合があります。
- その他、本機は地面の傾斜角が10°以上の場所では使用できないので、作業前に下見をし、傾斜の急な箇所を事前によく確認しておいてください。



■ 芝刈作業、エンジン走行は基本姿勢を守って

警告

- 芝刈作業、エンジン走行では基本姿勢を守って行なってください。転倒やスリップは思わぬケガや事故の原因となります。

- 芝刈作業をするときや、エンジンの駆動により走行（エンジン走行）するときにはバケットを必ず装着してから基本姿勢を保って行なってください。

〈基本姿勢〉

- 走行中常に進行方向を向き、確実にハンドルのグリップを握り、左右の足を肩幅に開き、歩行する姿勢です。
- 視野は進行方向に定め、本機の進行にともない歩行するとき、左右の足が前後に一直線にならないように歩行してください。

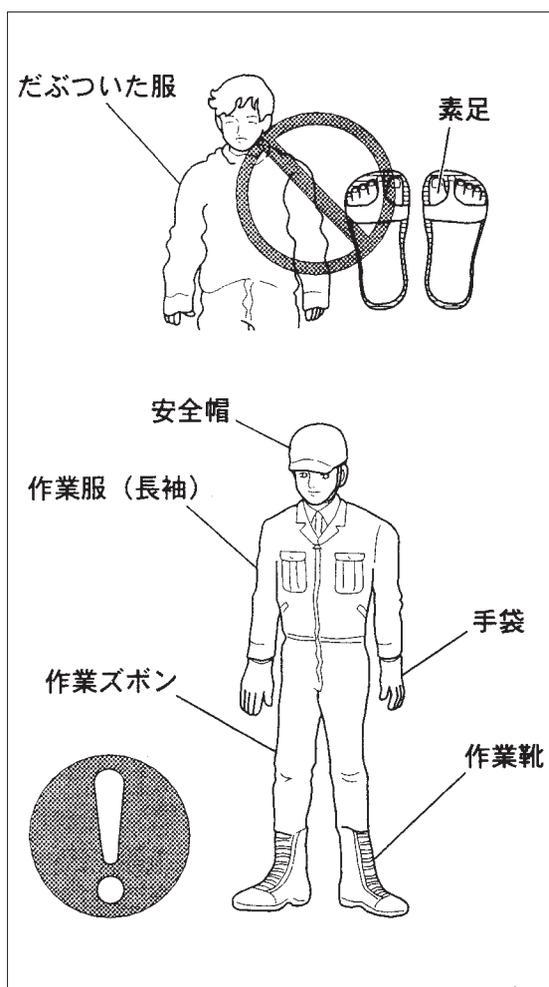


■ 作業に適した服装をする

警告

- 身体に合った作業服を着用してください。だぶついた作業服は機械の回転部に巻き込まれたり、機械の各部に引っかかり作業の障害や重大な傷害の原因となります。
- 手袋、長靴を着用し作業してください。手袋や長靴は虫や、刈くずが直に肌に触れるのを防ぎ、虫刺されやかぶれから身をまもるのに役立ちます。
- 安全帽を着用して作業してください。作業現場に張り出した枝など頭上の障害物から頭部を守ります。

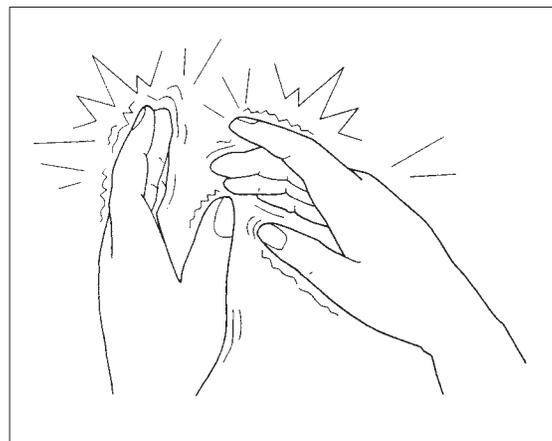
- 本機を操作し作業するときは、手袋をし、ソデ、スソのしまりのよい、だぶつきのない身体に合った服装をしてください。
- 滑りにくい長靴か編み上げ靴を着用しズボンのスソと靴の間を開けないようにしてください。地域によってはツツガ虫病による高熱などの被害があります。
- 頭上の枝などの障害物から頭部を保護するため安全帽（ヘルメット）を着用してください。



■ 冷えと振動について

⚠ 警告

- 寒冷時の芝刈作業では適宜休憩を設けてください。長時間の作業では、振動と冷えにより指先、手、腕に痛みをとまなう症状が現われることがあります。
- 作業中に痛みを感じた場合は、ただちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。
レイノー氏症候群であることがあります。



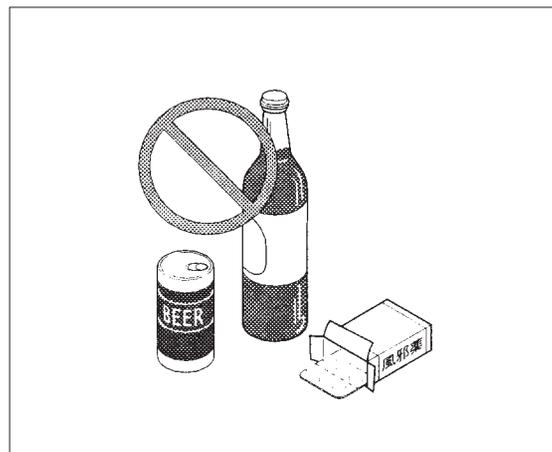
- 低温で芝刈作業中に指先、手、腕に痛みを感じた場合、ただちに作業を中止して、医師の診断を受けてください。慢性的に指先、手、腕に痛みを感じる、レイノー氏症候群は低温と冷えに長時間さらされた場合に発症するといわれています。

発症の原因となる条件が温度的にも時間的にも不明確ですので、寒冷地や寒冷時の芝刈作業には、指先、手などの体温が回復するだけの休憩を日頃から充分にとってください。

■ 薬物の影響のある人や酒気を帯びた人に操作させない

⚠ 警告

- 薬剤を服用中の人は本機を操作しないでください。
一般に常用されている薬剤でも判断力や敏捷性に影響を及ぼすものがあります。風邪薬や痛み止めなどを服用するときは充分注意してください。
- 酒を飲み、アルコールの影響下にある人は本機を操作しないでください。
判断力や敏捷性に影響を及ぼし、重大な傷害を伴う事故につながります。



4. 操作前の準備

■ バケットの装着方法

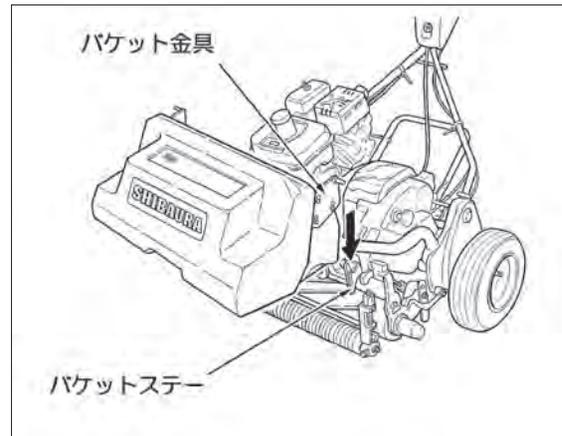


警告

- 芝刈作業や走行時には必ずバケットを装着してください。

〈バケットの装着〉

- ①バケット金具（右）、（左）の丸棒・プレートの上に本機側左右のバケットステーの角部を通し、バケットを上から止まるまで差し込んでください。
- ②バケットが確実に装着され、斜めになったり、刈刃に当たっていないか確認してください。



■ スタンドの立て方と搬送用タイヤの着脱



警告

- 必ず水平で、芝刈機が自然に移動するおそれのない場所でスタンドの立てはせずと搬送用タイヤの着脱をしてください。

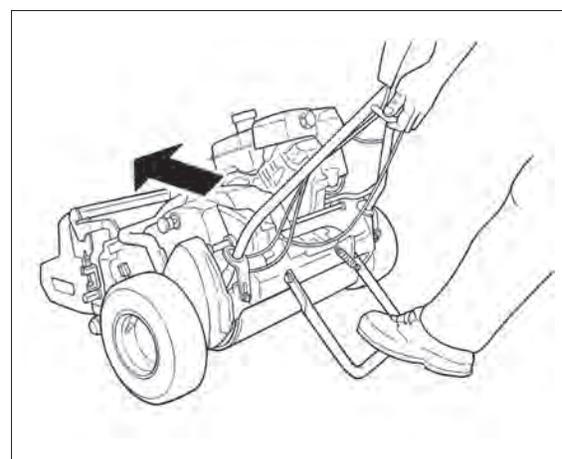
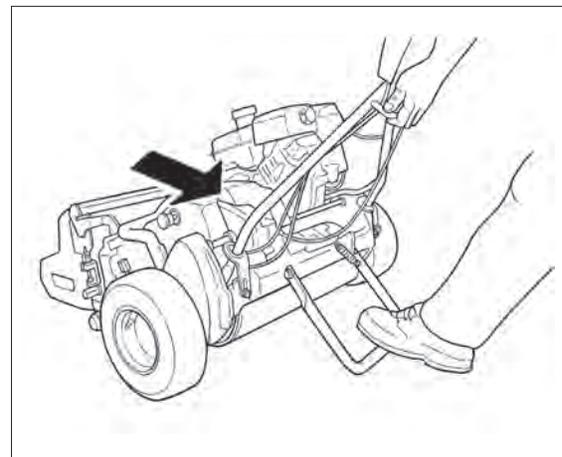
〈スタンドの立て方とはずし方〉

スタンドの立て方

- ①左手でハンドルの水平部分を握り、右手でスタンドグリップを持ち、スタンドに右足をかけ、地面に押し付けてください。スタンドにかけた右足は途中ではずさないでください。
- ②スタンドを右足で地面に押し付けたまま、スタンドグリップを手前上方に引き上げてください。
 - スタンドが直立し、前ローラーとスタンドで芝刈機本体が支えられ、搬送用タイヤが地面から浮き上がります。
 - この状態で搬送用タイヤの着脱をします。

スタンドのはずし方

- ①右手でスタンドグリップを確実に握り、右足をスタンドに押し付けてください。
- ②左手でハンドルの水平部分を握り、スタンドに押し付けた右足を絶対にはずさないように注意しながら、両手で芝刈機を静かに前に押し付けてください。
 - スタンドがはずれ、搬送用タイヤ（後ローラー）が着地します。
- ③搬送用タイヤ（搬送用タイヤがはずしてある場合は、後ローラー）が着地したのを確認してからスタンドを右足で静かに元の位置までもどしてください（スタンドの右側にある、もどしピンを靴で引っかけると簡単です）。

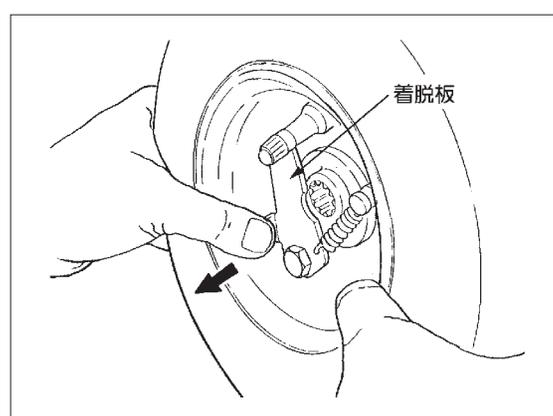
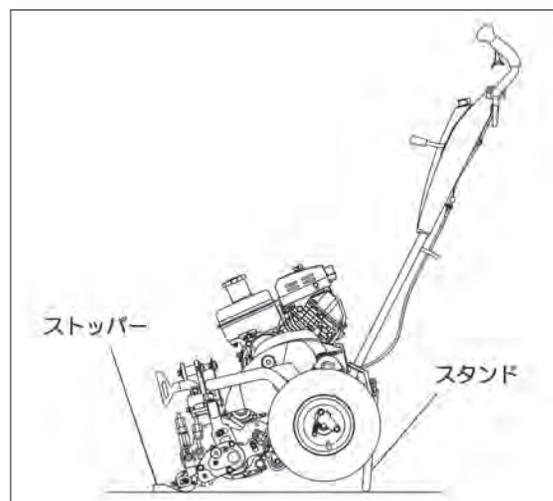


〈搬送用タイヤの着脱〉

- スタンドを前ページ「スタンドの立て方」の手順に従って、安定した状態であることを確認してから搬送用タイヤを着脱してください。

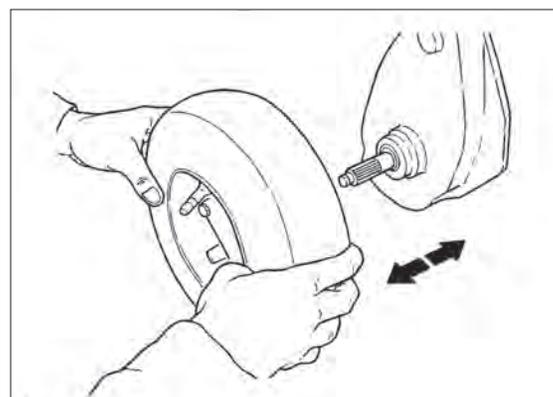
搬送用タイヤのはずし方

- ① スタンドを立て、前ローラーの前に石や木片をストッパーとして差し込んで、作業者の身体が芝刈機本体に触れてもスタンドがはずれないようにしてください。
 - ② 片手で搬送用タイヤを支え、ホイールの内部にある着脱板をもう一方手の親指で止まるまで押し下げてください。
 - ③ 搬送用タイヤをタイヤ軸に平行に引き抜いてはずしてください。
 - ④ 反対側の搬送用タイヤも同じ方法ではずし、前ローラーの前に差し込んだ石や木片を取り除き、前ページ「スタンドのはずし方」に従って静かにスタンドをはずしてください。
- 後ローラーに衝撃を与えるとタイヤ軸が曲がったり、後ローラーが破損し、刈り取りに支障をきたします。



搬送用タイヤの取り付け方

- ① スタンドを前ページ「スタンドの立て方」の手順に従って立て、前ローラーの前に石や木片をストッパーとして差し込んで、作業者の身体が芝刈機本体に触れてもスタンドがはずれないようにしてください。
- ② 片手で搬送用タイヤを支え、ホイールの内部にある着脱板をもう一方手の親指で止まるまで押し下げてください。
- ③ 着脱板を押し下げたまま搬送用タイヤをタイヤ軸のスプラインの凸凹に合う様に、平行に差し込み、タイヤ軸がホイールから見えたら着脱板を離して、着脱板がタイヤ軸の溝にはまり「カチッ」と音がするまでタイヤを押し込んでください。
- ④ 反対側の搬送用タイヤも同じ方法で取り付け、前ローラーの前に差し込んだ石や木片を取り除き、「スタンドのはずし方」に従って静かにスタンドをはずしてください。



■ 燃料の補給

⚠ 危険

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止してから行ない、燃料の補給中、燃料のそばで喫煙したり、裸火を扱わないでください。
引火、爆発により死に至ることがあります。
- エンジン停止直後でエンジンが高温状態のときは燃料の補給を行なわないでください。
- 燃料の補給や保管は消防法の規準に適合した施設で行なってください。
- 燃料補給の際にこぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- プラスチックの容器などに小分けして保管したり、その容器から給油しないでください。
静電気による引火や発火の危険があります。
- 燃料補給場所でエンジンを始動しないでください。

重要

- 本機の燃料にはレギュラーガソリン（無鉛）を使用してください。
- 給油する場合は必ず燃料フィルターを外さずに給油してください。

- 燃料タンク上部の燃料計を見て、燃料計の針が『E』の位置にある場合は、燃料を補給してください。

① 燃料キャップを反時計方向に回してゆるめ、取り外してください。

- 給油口の内部には燃料フィルターがあります。

② 燃料フィルターを点検し、ゴミや沈殿物などの汚れがあった場合は、給油口から抜き取り、燃料で洗って汚れを落としてください。

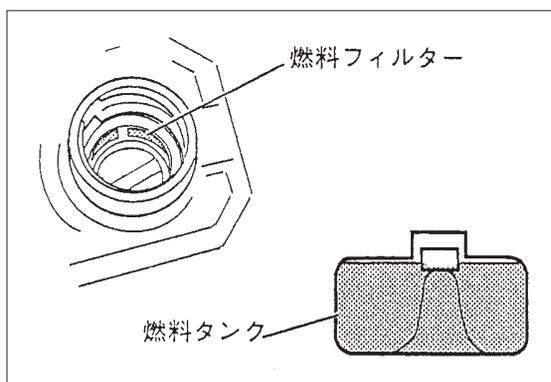
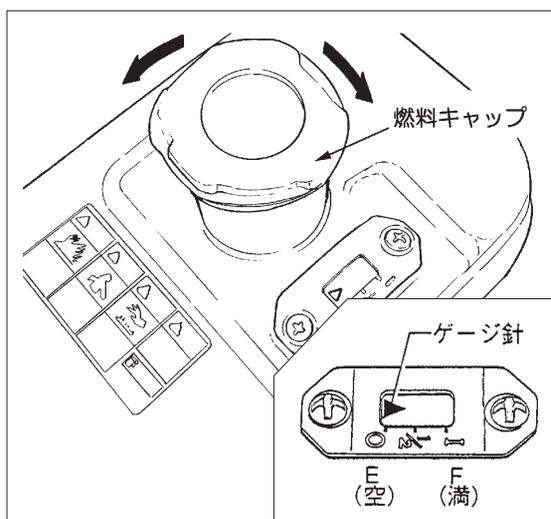
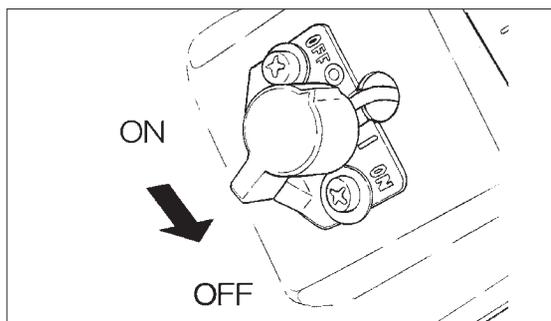
- 燃料フィルターを傷めないように注意して、着脱してください。

- 燃料フィルターに穴があいているなど傷んでいたら、営業所、販売店に部品を請求し交換してください。

③ 燃料フィルターが給油口に取り付けられていることを確認し、燃料を給油口に静かにそそぎ、燃料フィルターのところまで補給してください。

- 入れすぎると燃料が燃料キャップからにじみ出ることがあり危険です。

- 給油する場合、燃料フィルターをはずさないでください。



■ エンジンオイルの点検／交換

⚠ 危険

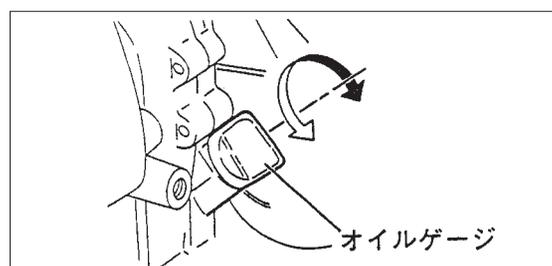
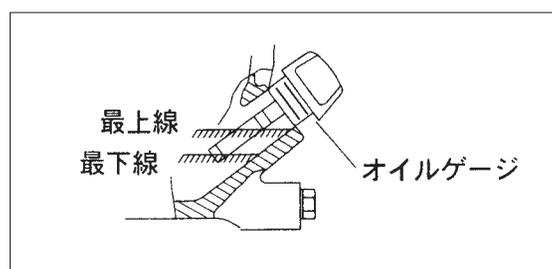
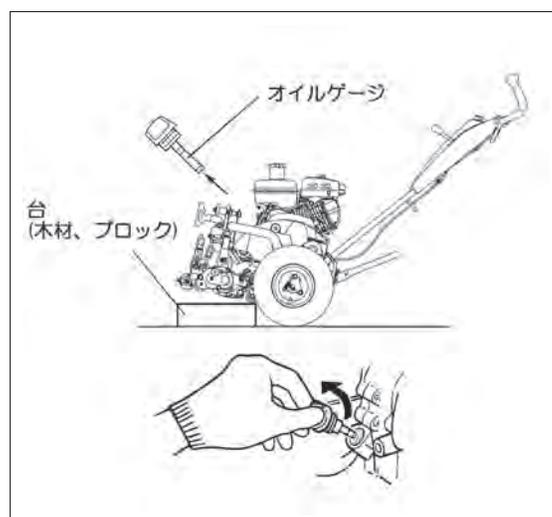
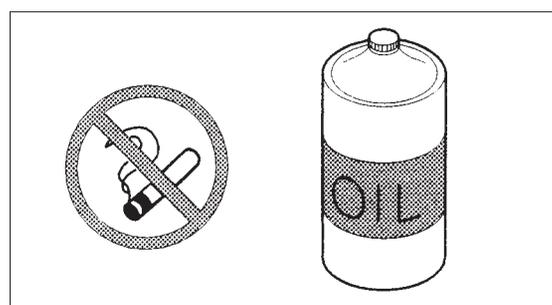
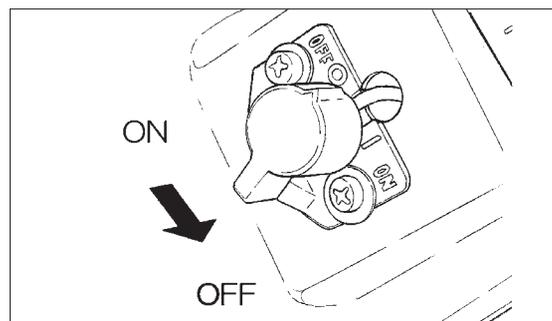
- 必ずエンジンを停止してからオイルを点検／交換し、たばこをすったり、火花、炎を近づけたりしないでください。
- 点検／交換の際こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。
- エンジン停止直後にエンジンやマフラー（消音器）など高温部に触れないでください。

重要

- 本機のエンジンオイルには API:SE、SAE:10W-30あるいは同等品を使用してください。
- エンジンオイルの点検は毎日作業前に行なってください。

〈エンジンオイルの点検〉

- エンジンオイルの点検口は、エンジンの前後側にあります。
- ①平らな場所に機械を置き、リールユニットの下にしっかりした台（木材、ブロックなど）を置き、前後の点検口が水平になるようにしてください。
 - 台はしっかりした物を選び、点検中に台からリールユニットが外れないよう注意してください。
 - ②オイルゲージを反時計方向にまわして外してください。
 - ③オイルゲージには、目盛りがついていますので、繊維がとれない白い布で目盛りをぬぐって、布に付いたオイルの汚れを点検してください。
 - オイルが黒かったり、混入物が認められる場合は、交換期間以内でもオイルを交換してください。
 - ④再度オイルゲージを点検口に差し込んで（ねじ込まないで）から抜き出し、目盛りに付いたオイルでオイルの量を点検してください。
 - オイルは、いつも目盛りの最上線の位置にあるようにし、最上線以下の場合はオイルを最上線の位置にくるまで補給してください。
 - ⑤オイルゲージを点検口に取り付け、時計方向にまわし確実に締めてください。
 - ⑥作業中こぼれて車体についたオイルは乾いた布で完全に拭き取ってください。



〈エンジンオイルの交換〉

- エンジンオイルの排出はエンジン後部のドレイン（排油）ボルト取付口で行なってください。
- エンジンオイルの交換は、本機を購入されてから使用時間20時間後に第1回目を行ない、以後、100時間を目安に行なってください。

①平らな場所に本機を置き、ハンドルを持ち、スタンドが地面に着き、安定する位置まで後方に静かに倒してください。

- 前方への倒れを防止する為、ハンドル上にウエイトをのせてください。

②エンジン後部に、廃油容器を置いてください。

- エンジンオイルは0.6リットルあります。廃油が充分に入る油容器を用意してください。

③エンジン後部にあるドレインボルトをボックスレンチ等で反時計方向に緩め、外してください。

- ドレインボルトを緩めると、廃油がエンジン台を伝わり落ちます。油容器の位置を調整し、ゆっくりとドレインボルトを外してください。

- 前部エンジンオイル点検口のオイルゲージを緩めるとオイルが静かに早く抜けます。

④廃油が完全に抜けたらドレインボルトを元の位置に取り付け、時計方向に確実に締めてください。

⑤ハンドルを持ち機械を元の状態に起こして、車体に付着したオイルを拭き取ってください。

⑥平らな場所に機械を置き、リールユニットの下にしっかりした台（木材、ブロックなど）を置き、エンジンが水平になるようにしてください。

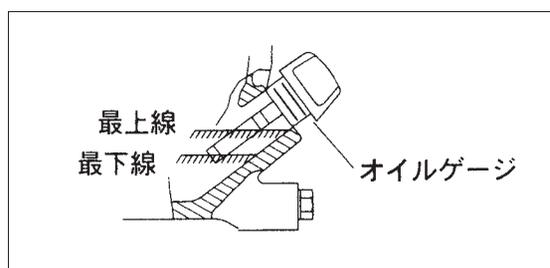
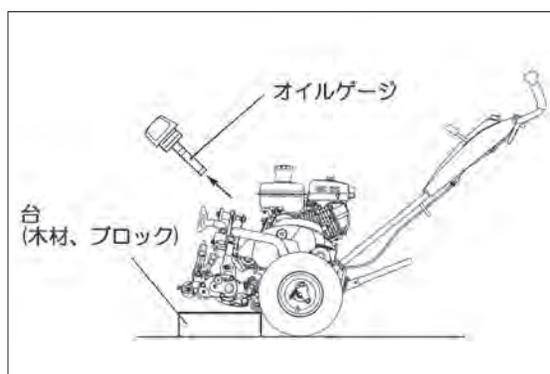
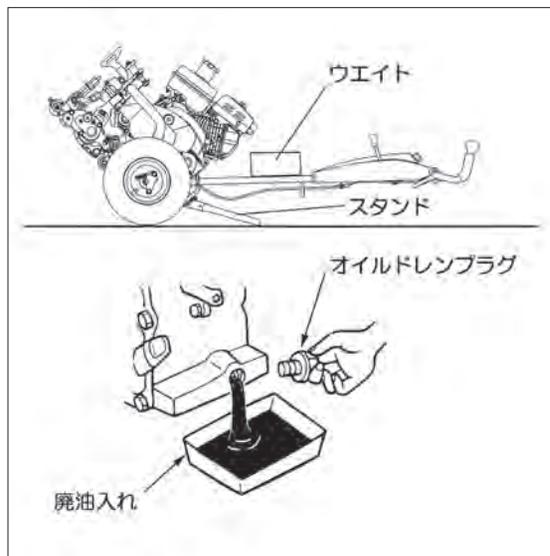
- 台はしっかりした物を選び、点検中、台からリールユニットが外れないよう注意してください。

⑦エンジン前後部にあるオイルゲージを反時計方向にまわして外し、オイルゲージで油量を確認しながらオイルゲージの最上線の位置までオイルを注入してください。

- オイルはオイルゲージ取付穴から注入してください。

⑧オイルゲージを点検口に取り付け、時計方向にまわし確実に締めてください。

⑨作業中こぼれて車体についたオイルは乾いた布で確実に拭き取ってください。



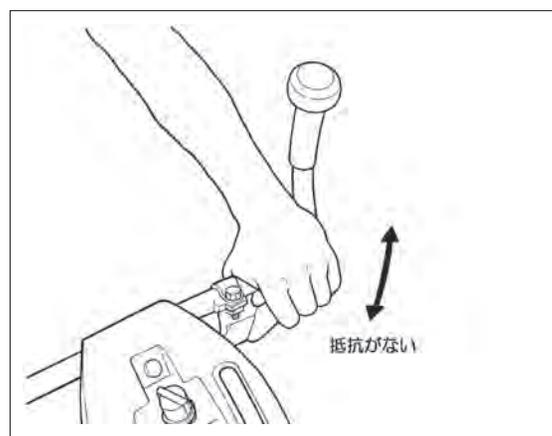
■ ブレーキと主クラッチ、刈刃クラッチの作動チェック

⚠ 警告

- 本機を操作する前にブレーキ、主クラッチと刈刃クラッチの作動を点検してください。
- 異常があった場合は作業を行なわないでください。

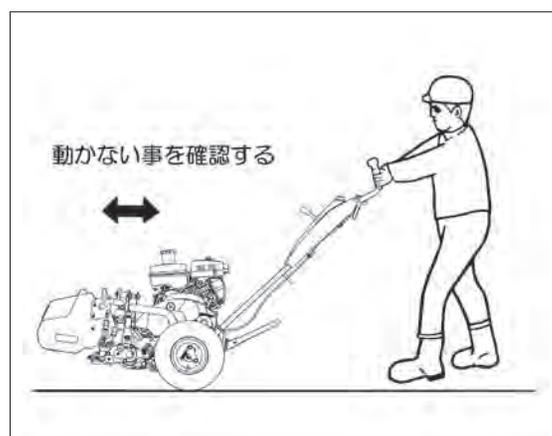
〈ブレーキの作動チェック〉

- ①ブレーキレバーを握ったとき、ブレーキが作動することによる抵抗力を感じない場合や動かない場合は、ブレーキワイヤーが切れているか錆びていることが考えられますので、販売店に連絡して、ブレーキワイヤーの点検と交換を依頼してください。
- ②ハンドルのグリップを両手で持ち、ブレーキレバーを握ったまま（ロック状態）、本体を前後に動かし、動かないことを確認してください。
 - 動いてしまう場合は、ブレーキワイヤーが伸びていますので、調整をしてください。（32ページ「ブレーキの調整」を参照してください。）



〈主クラッチの作動チェック〉

- ①エンジンが停止している状態で主クラッチレバーを握って「作動」の位置（手前）に引き起こしてください。
 - 主クラッチレバーの作動範囲の中間をこえると、レバーは自然に作業側側に倒れます。
 - 主クラッチレバーを「作動」の位置にしたとき、抵抗力を感じない場合や動かない場合は、クラッチワイヤーが切れているか錆びていることが考えられますので、営業所または販売店に連絡して、クラッチワイヤーの点検と交換を依頼してください。



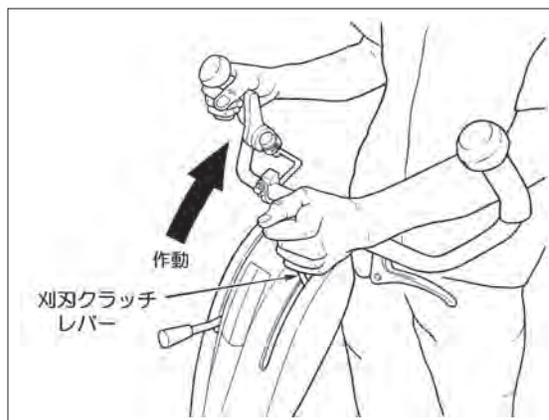
- ②走行変速ノブを「H」又は「L」の位置にしてください。

- ③主クラッチレバーを完全に「作動」の位置に倒し、ハンドルのグリップを両手で握って、本体を前後に押し引きし、動かないことを確認してください。
 - 動いてしまう場合は、主クラッチワイヤーが伸びていますので、調整をしてください。（33ページ「主クラッチの調整」を参照してください。）



〈刈刃クラッチの作動チェック〉

- ①エンジンが停止している状態で刈刃クラッチレバーを握って「作動」の位置（手前）に引き起こしてください。
 - 刈刃クラッチレバーの作動範囲の中間をこえると、レバーは自然に作業者側に倒れます。
 - 刈刃クラッチレバーを「作動」の位置にしたとき、抵抗を感じない場合や動かない場合は、クラッチワイヤーが切れているか錆びていることが考えられますので、営業所または販売店に連絡して、クラッチワイヤーの点検と交換を依頼してください。
- ②走行変速ノブを「H」又は「L」の位置にしてください。
- ③刈刃クラッチレバーを完全に「作動」の位置に倒し、ハンドルのグリップを両手で握って、本体を後ろに引っ張り、刈刃が逆に回ることを確認してください。
 - 回らない場合は、刈刃クラッチワイヤーが伸びていますので、調整をしてください。（34ページ「刈刃クラッチの調整」を参照してください。）



5. 操 作

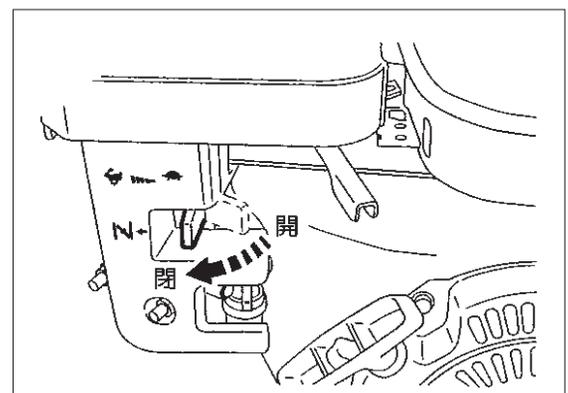
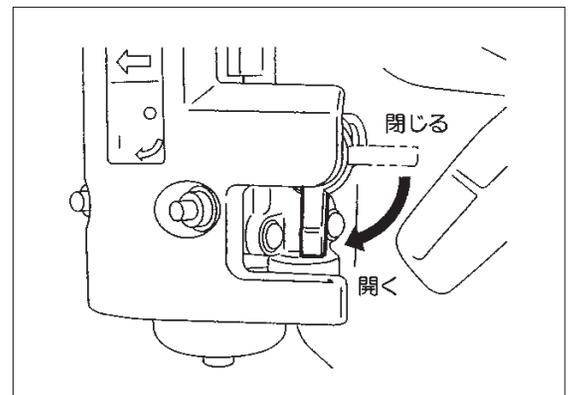
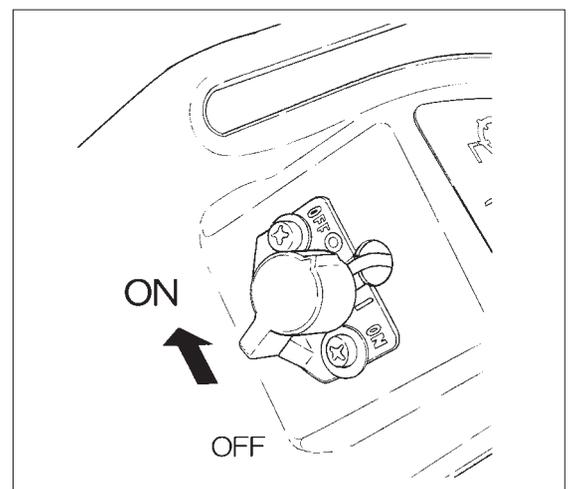
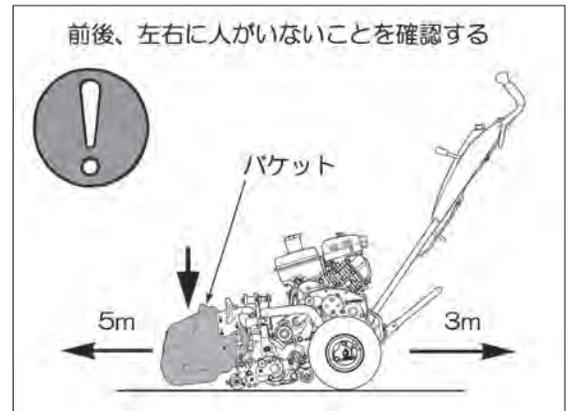
■ エンジンの始動と停止

⚠ 危 険

- 必ず屋外でエンジンを始動してください。
- エンジンの始動前に、走行変速ノブを「N」の位置にしてください。
- エンジンの始動前に、主クラッチ、刈刃クラッチが接続されていないことを確認してください。
- 燃料給油場所から最低5m以上離れてからエンジンを始動してください。
- エンジンを始動するときは必ずバケットを装着してください。
- エンジンの始動前に、芝刈機の前方5m、左右、後方3m以内に人がいないことを確認してください。
- エンジンの停止方法を理解してから、エンジンを始動してください。

〈エンジンの始動〉

- ①ブレーキ、主クラッチの作動を17ページの手順に従って確認してください。
- ②バケットを12ページ「バケットの装着」の手順に従って、装着してください。
- ③走行変速ノブを「N」の位置にしてください。
- ④主クラッチ、刈刃クラッチが接続されていない（「停止」の状態）ことを確認してください。
- ⑤エンジン手元スイッチを「ON」の位置にしてください。
- ⑥燃料コックを「ON」の位置に動かし、コックを開いてください。
- ⑦チョークレバーを「|●|」の位置に動かし、チョークを閉じてください。
 - 一度エンジンが始動した後、再始動する際にはチョークを閉じる必要はありません。



操 作

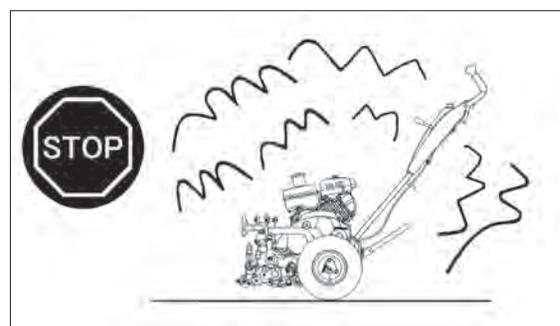
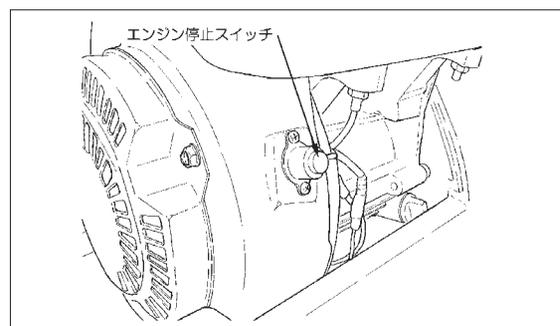
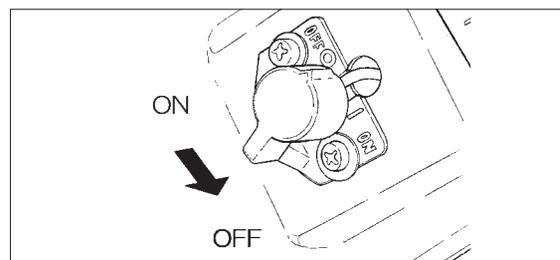
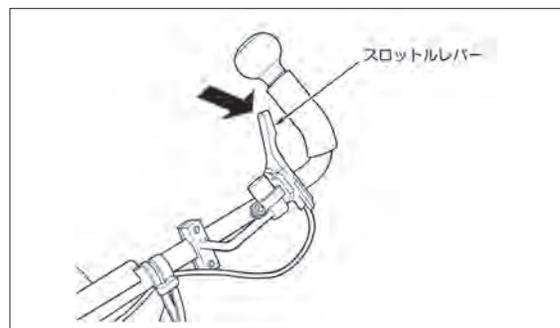
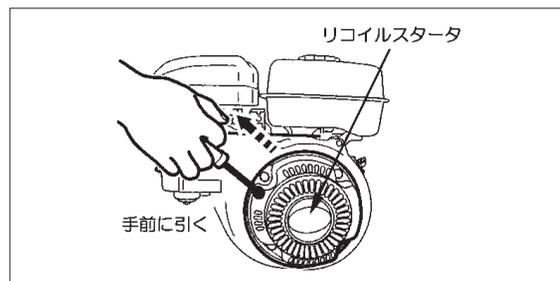
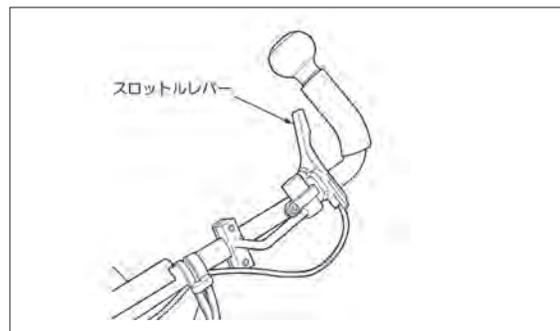
- ⑧スロットルレバーの▽マークを「H」と「L」との中間の位置に合わせてください。
- ⑨芝刈機が動かないよう左手で燃料タンクを押さえ、右手でリコイルスタータのハンドルを握って、素早く手前に引いてください。
- エンジンが始動します。何度引いてもエンジンが始動しないときは、営業所または販売店にご連絡ください。
 - リコイルスタータは引き出せる長さの4/5位の範囲で引いてください。
- ⑩リコイルスタータのハンドルを静かに収納部に戻してください。
- ⑪エンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に開き、最後は必ず全開にしてください。
- ⑫エンジン始動後は2～3分間暖機運転をしてください。

〈エンジンの停止〉

- ①スロットルレバーの▽マークを「L」の位置に合わせてください。
- ②エンジン手元スイッチを「OFF」の位置にしてください。
- エンジンが停止します。エンジンに取り付けてあるエンジンストップスイッチを押すことでもエンジンを停止することができます。
 - 排気口以外から白煙が出るなど、緊急の場合エンジンを直ちに停止してください。
- ③燃料コックを閉めてください。

重 要

- 本機に搭載のエンジンは、高速回転用エンジンです。低速回転での使用は、エンジンの故障の原因になります。作業時間15日間（30時間）に10分くらいは、エンジンを高速回転（MAX回転）にしてください。



■ 芝刈機の搬送

〈エンジン走行による搬送〉

⚠ 警 告

- エンジン走行の前に、前方5m、左右、後方3m以内に人がいないことを確認してください。
走行変速ノブを「H」又は「L」の位置にし、主クラッチを接続すると、接続と同時に芝刈機は前進します。突進による事故を防いでください。
- エンジンを始動／走行するときは必ずバケットを装着して行なってください。
- 芝刈機の停止方法を理解してから、エンジン走行してください。

重 要

- 芝生以外の場所を搬送タイヤを取り付けない状態でエンジン走行しないでください。
後ローラーの破損だけでなく、ローラー軸が変形し、正常な回転ができなくなり、芝を均一に刈れなくなります。

- エンジン走行による搬送には熟練が必要です。必ず何度も練習し安全に走行できるようになってください。

①前方5m、左右、後方3m以内に人がいないことを確認し、エンジンを始動し、基本姿勢をとってください。

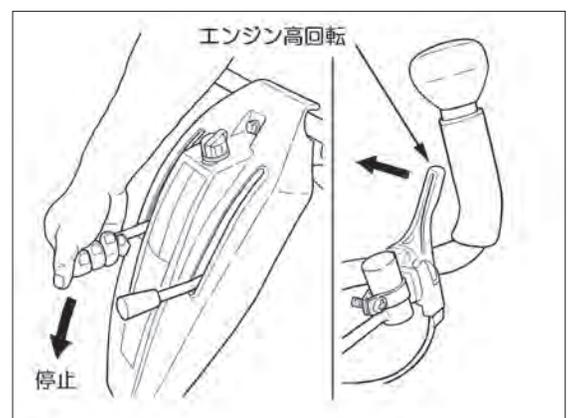
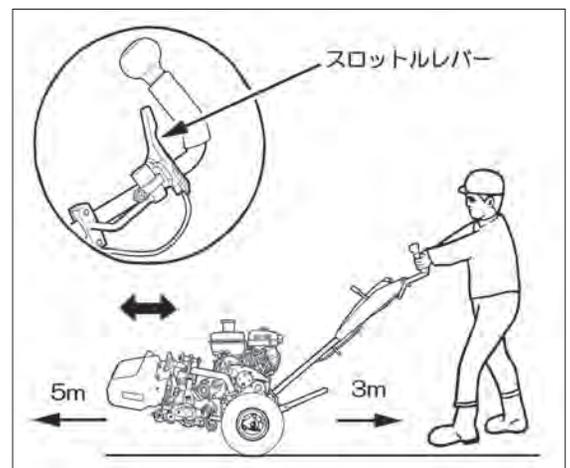
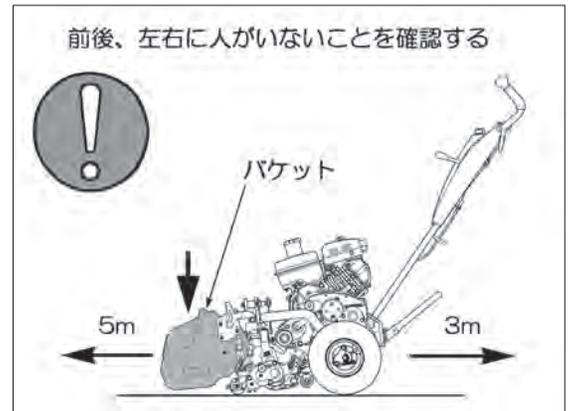
②走行変速ノブを「H」又は「L」の位置にしてください。

③スロットルレバーの▽マークを「L」の位置にし、刈刃クラッチレバーを停止の位置にしてください。

④左手で左のグリップを確実に握り、主クラッチレバーをゆっくり手前に引いて「作動」の位置にしてください。

- 主クラッチが接続されると同時に芝刈機は前進します。
- エンジン走行に慣れ、安定した走行ができるようになってからスロットルレバーのマークを「H」の位置にし、エンジン高速回転での走行に慣れてください。

⑤停止するときは、主クラッチレバーを前方に押し、「停止」の位置にしてください。



■ 車両による搬送

⚠ 警 告

- 芝刈機の車両への積み降ろし作業はエンジンを稼動したままや、エンジン走行で行なわないで下さい。
- 芝刈機の車両への積み降ろし作業は、必ず2人以上で行ない、荷台へ積む際は、積み込み用の桁を用いて行ってください。
- 積み降ろし作業の際、芝刈機本体の落下には充分注意してください。
- 機械の落下する方向に人を入れないでください。



重 要

- 本機の車両への積み降ろし作業は、搬送用タイヤを装着して行ってください。
後ローラーが破損したり、後ローラーの軸が変形し、均一に芝が刈れなくなります。



- トラックの荷台などへ本機を載せる場合は必ず2名以上で行ない、万一の機械の落下に備え、機械の落下する方向や桁の間、荷台付近に作業員以外の人を入れないでください。

- ① クラッチが全て「切」の状態にエンジンを停止していることを確認してください。
 - ② 荷台に積み込み用の桁（けた）を確実にかけてください。機械の落下する方向や桁の間、荷台付近に人がいないか確認してください。
 - ③ 搬送用車両のサイドブレーキが引かれ、車両が固定されていることを確認してください。
 - ④ 2人のうち1人は必ず芝刈機のブレーキを操作できるようにし、ブレーキをかけ、落下を防止しながら、荷台方向へ本機を静かに引き上げて荷台に載せてください。
- 芝刈機を下から押し上げないでください。
 - 荷台に搭載した後は、荷紐をかけ完全に荷台に固定してから搬送してください。

■ 芝刈作業までの操作

⚠ 危 険

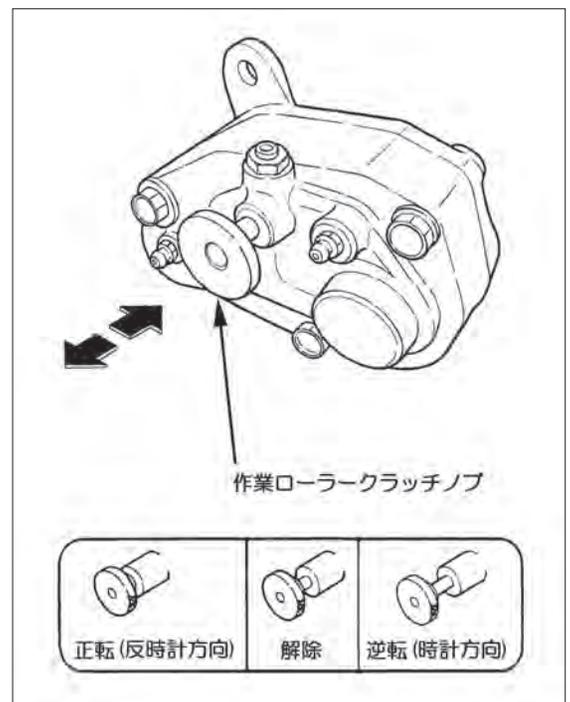
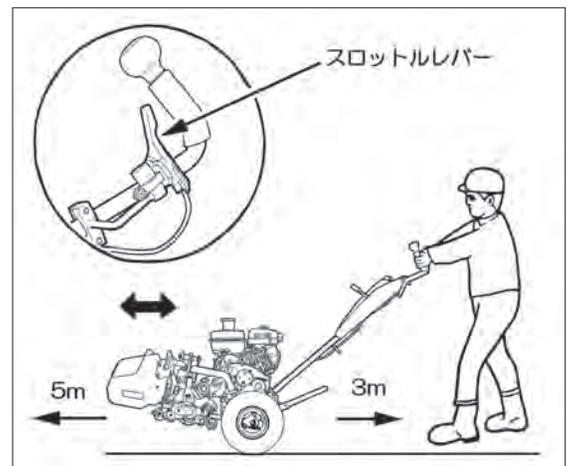
- 作業ローラークラッチノブ、走行変速ノブは必ず芝刈機の横方向から操作してください。
- 必ずバケットを装着してクラッチ操作、芝刈作業をしてください。

- 本機で芝刈作業をするためには、刈刃クラッチ、作業ローラークラッチを接続する必要があります。
- 刈刃クラッチは芝生を刈り取る時刈刃を回転させるためのクラッチです。
- 作業ローラークラッチは、作業ローラーを回転させるためのクラッチです。
- 刈刃、作業ローラーは、両クラッチが接続された後、主クラッチが接続されると回転を始めます。

〈作業ローラークラッチの接続〉

- 作業ローラークラッチの接続は、刈刃クラッチの接続前に行なってください。

- ①作業現場に到着したら、なるべく芝生に近い平坦な柔らかい土の上で搬送用タイヤをはずしてください。
- ②芝刈作業開始地点でバケットを装着し、主クラッチが接続されていないこと、芝刈機前方5m、後方、左右3m以内に人がいないことを確認してエンジンを始動してください。
 - スロットルレバーの▽マークは「L」の位置にあわせてください。
- ③ブレーキをかけなくても、芝刈機本体が動き出さないことを確認し、本体の左側から作業ローラークラッチを停止するまで押し込んでください。
 - クラッチは、停止するまで押すと「正転（反時計方向）」、一段階引くと「解除」され、最後まで引くと「逆転（時計方向）」の状態になります。



〈刈刃クラッチの接続〉

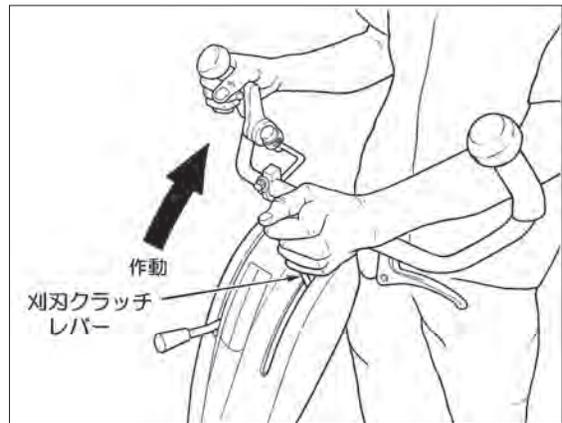
- ①作業ローラークラッチを接続してから、もう一度、芝刈機本体が動き出さないことを確認し、刈刃クラッチレバーを「作動」の位置にしてください。

〈芝刈作業の開始〉



警 告

- 必ずバケットを装着し芝刈作業を行なってください。
- 作業開始前に前方5m、左右、後方3m以内に人がいないことを確認してください。
- グリップを確実に握り、芝刈機の暴走、突進を防いでください。主クラッチが接続した直後、芝刈機は前進します。
- 芝刈作業中は基本姿勢を保持してください。不安定な姿勢は事故をまねきます。



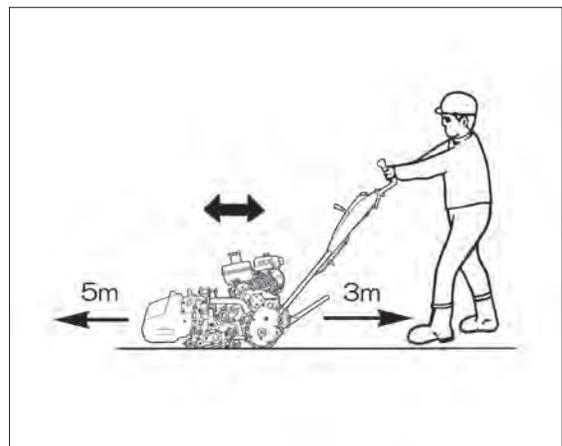
- ①前述の手順に従い、芝刈作業現場の近くの平坦な場所で、搬送用タイヤをはずし、エンジンを始動してください。

- ②前方5m、左右、後方3m以内に人がいないこと、バケットの装着を確認し、スロットルレバーのMマークを「L」と「H」の中間にしてください。

- 作業に慣れてからスロットルレバーを「H」の位置にしてください。

- ③刈取開始位置まで芝刈機を手動で押し、開始位置にきたら、作業ローラークラッチの接続、刈刃クラッチレバーを「作動」の位置にし、左手でハンドルグリップを確実に握り、進行方向に向けて基本姿勢をとり、主クラッチレバーをゆっくり右手で引き起し、「作動」の位置にしてください。

- 主クラッチが接続した直後、芝刈機は前進しますので、手を離して暴走したり、突進し事故を起こさないように注意してください。



■ 芝刈作業

⚠ 危 険

- 作業ローラークラッチノブ、走行変速ノブは必ず芝刈機の横方向から操作してください。
- 必ずバケットを装着してクラッチ操作、芝刈作業をしてください。

〈直進とターン〉

- 芝刈作業で必要となる直進とターン（回転）のしかたです。何回か練習し作業に慣れてください。スロットルレバーの▽マークを「H」（高速回転）に合わせての作業は、ここに示す直進とターンに完全に慣れてから行なってください。
- 本機は出荷時に輸送などにおける刈刃による事故を防止するため、刈刃と下刃の間隔を広くしてあります。芝刈作業を行なってみて、刈高が規格に合わない、切れ味が悪いなどの場合は調整してください。（26ページ「6. 調整」を参照してください。）
- 作業者の体格に合わせハンドルの高さを調整し芝刈作業を行なってください。（34ページ「ハンドル高さの調整」を参照してください。）

①直進して芝生を刈る場合は、基本姿勢を保持し右図のように刈ってください。

②グリーンの端まで刈ってきたら、右図のように先端を上げ、スロットルレバーを少し戻しゆっくりターンしてください。

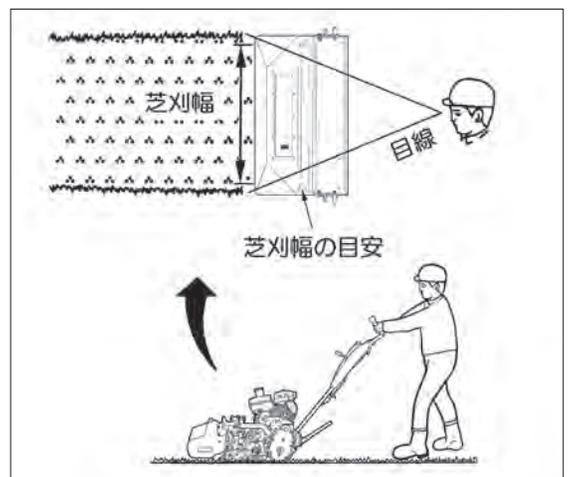
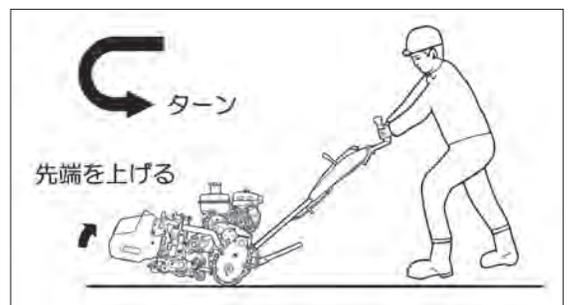
- 慣れないうちは、余裕をみて大きくターンしてください。

③バケットが刈り取った芝で一杯になりましたら、必ずエンジンを停止してからバケットを外し、芝屑を捨ててください。

- エンジンや他の火気により引火する可能性のない場所を芝屑集積場所に決め、可燃ゴミとして処理してください。

〈芝刈巾の目安〉

バケットの上部両端には芝刈巾の目安の取っ手があります。両手でグリップを握り、基本姿勢を保持した状態で、この取っ手の延長上の芝生が刈ることのできる巾です。



6. 調整

■ 切れ味の調整

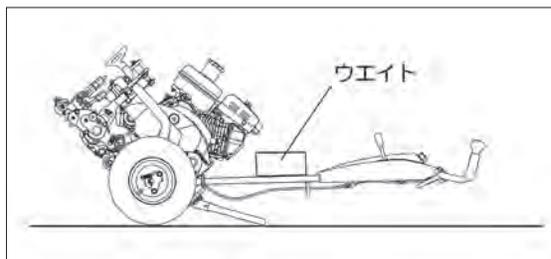
- 本機は出荷時に輸送などにおける刈刃による事故を防止するため、刈刃と下刃の間隔を広くしてありますので、芝刈作業前に間隔を調整する必要があります。
- 使用中に切れ味が悪くなった場合は刈刃を研磨し直し、刈刃と下刃の間隔を調整する必要があります。刈刃と下刃の間隔を調整する場合は、このページの「刈刃と下刃の調整」に従って調整してください。
- 刈刃と下刃の間隔を調整しても切れ味が向上しない場合は、刈刃をラッピング（研磨）してください。（30ページ「ラッピング（刈刃の研磨）による切れ味の調整」を参照してください。）
- 刈刃と下刃の間隔調整、ラッピング調整をしても、刈り取った芝がスジ状に残ったりブロック状に残る場合は営業所、販売店にご相談ください。

〈刈刃と下刃の調整〉



警告

- 必ずエンジンを停止し、主クラッチ、刈刃クラッチ、作業ローラークラッチの接続を解除して調整を行なってください。
- 刈刃の回転には必ず刃合わせ金具を使用してください。
- 刈刃に直接触れないでください。



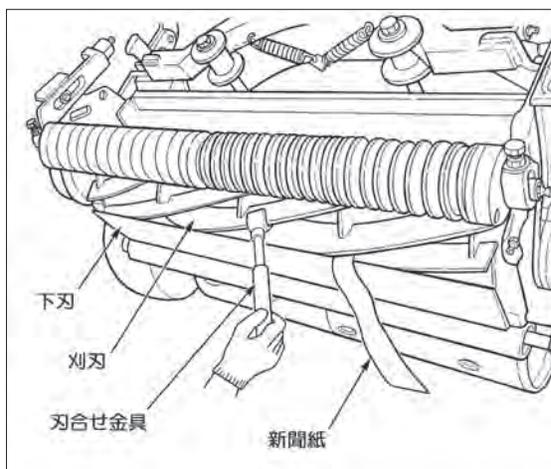
- 刈刃と下刃の調整には新聞紙を50mmほどに裂き、短冊型にしたものを用意してください。

①平坦な場所で芝刈機本体を後方に倒し、スタンドを地面につけ、機械が動かないようにしてください。

- 前方への倒れを防止する為、ハンドル上にウエイトをのせてください。
- 刈刃を回転させる時は必ず刃合わせ金具を使用し、直接手で触れないでください。

②刈刃の中央、左右の3カ所について短冊型に裂いた新聞紙を刈刃と下刃の間にはさみ、「刃合わせ金具」で刈刃を上から下に回し、切れ味をテストしてください。

- 新聞紙が切れない場合は、刈刃と下刃の間隔が広すぎます。
- 間隔が広すぎる場合は、下刃調整ハンドル（右）、（左）を時計方向に回し、間隔をせまくしてください。

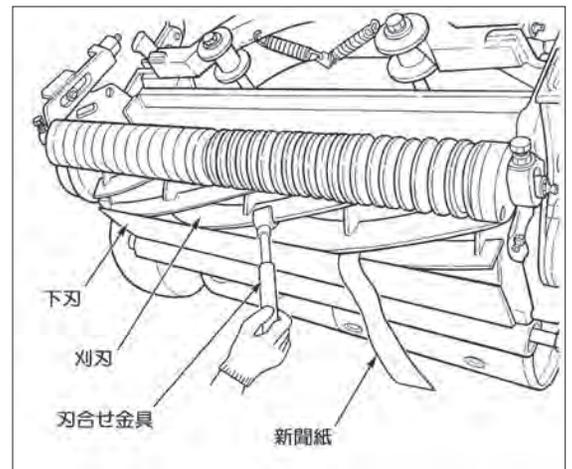
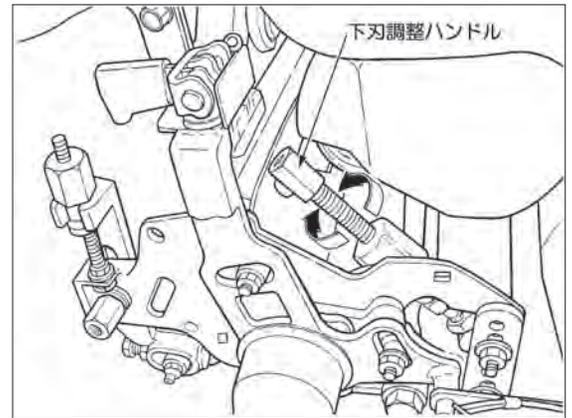


●刈刃と下刃の間隔は下刃調整ハンドルを時計方向に回転させるとせばまり、反時計方向に回転させると広がります。

③刈刃の中央、左右の3カ所について短冊型に裂いた新聞紙で切れ味をテストし、新聞紙がよく切れるまで調整を繰り返してください。

●刈刃全てについて、切れ味を調整してください。

④切れ味をテストし、全ての刈刃で新聞紙がどの位置でも同じように切れるようになり、回転に異常がないことを確認してください。



■ 刈高さの調整



警 告

●必ずエンジンを停止し、主クラッチ、刈刃クラッチ、作業ローラークラッチの接続を解除して刈高の調整を行ってください。

- 刈高さの調整は、刈刃と下刃の切れ味の調整（刃合わせ）をしてから行ってください。
- グリーン上の芝生を必要な高さに刈そろえるには、前ローラーと、後ろローラーの高さを調整して行ないます。芝生の刈高調整と作業ローラーの高さ調整を同時に行なって、一度芝生を刈り、その結果をみて再調整してください。
- 後ろローラブラケットが希望の刈高さ範囲になっているか確認してください。
(出荷時は、下表の位置になっています。)
- ここでは、芝高を地表から5mm、作業ローラーを4mmに調整する場合について説明します。

①刈高ゲージの2ヶ所のネジが右図のように互いに向き合うようにセットしてください。

②刈高ゲージの中央に近いほうのネジの蝶ナットをゆるめ、ネジ頭の底部とゲージの間（ネジの首下）を物差しで計り、5mmになるように調整し、蝶ナットを締めてネジを固定してください。

●この寸法が芝生の刈高になります。

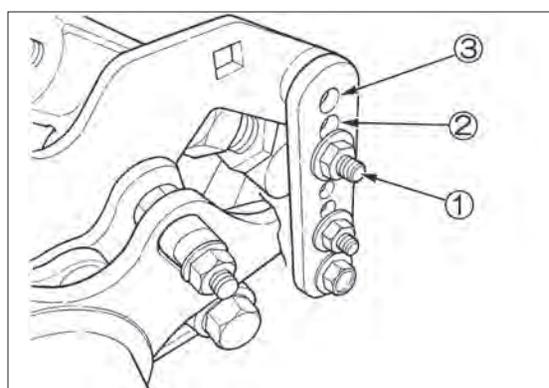
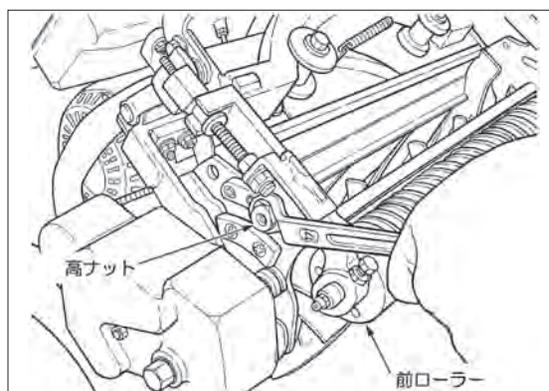
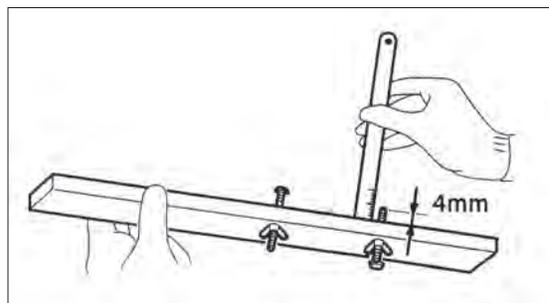
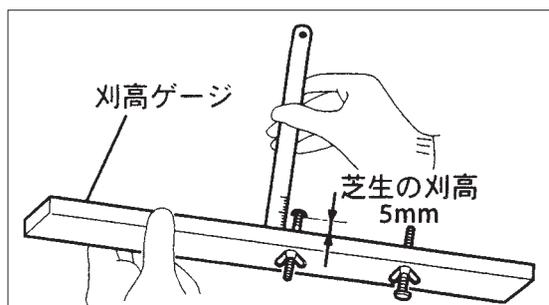
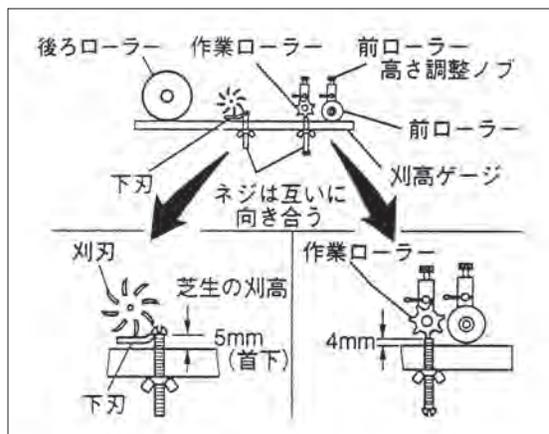
③もう一方のネジの蝶ナットをゆるめ、ネジの先端が刈高ゲージからの突き出た長さを物差しで計り、4mmになるように調整し、蝶ナットを締めてネジを固定してください。

●この寸法が作業ローラーと地表の間隔になります。

④平坦な場所で、芝刈機本体を後方に倒し、スタンドを地面につけ、ハンドルにウエイトをのせ機械が動かないようにしてください。

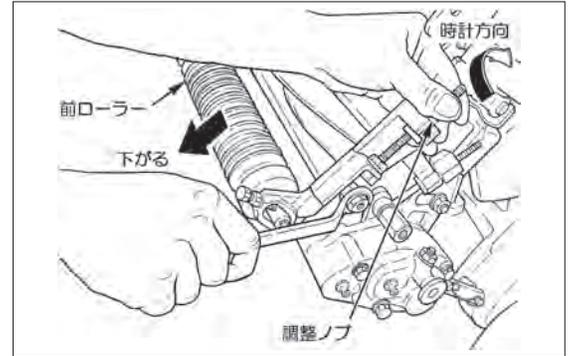
⑤前ローラー高さ調整ノブ（右）（左）の固定用高ナットをゆるめてください。

ブラケット位置	①	②	③
刈高さ (mm)	10以下	10~20	20~30

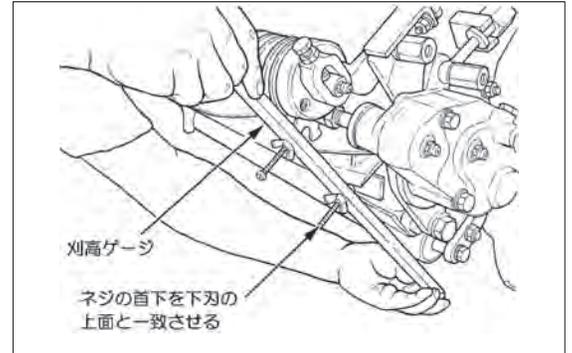


⑥前ローラーの地面に接触する部分と後ろローラーに刈高ゲージを当て、ゲージ中央部のネジの首下が下刃の上面と一致するように、前ローラー高さ調整ノブを回してください。

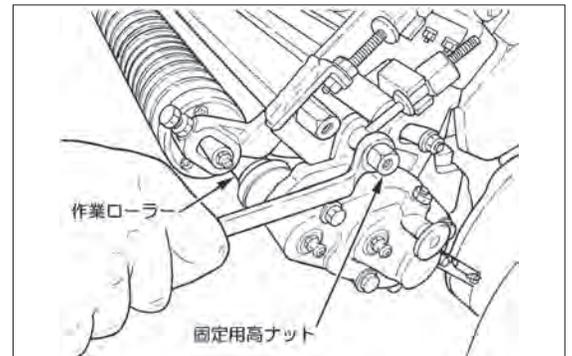
- 前ローラー高さ調整ノブを時計方向に回すと前ローラーが下がり、反時計方向に回すと上がります。



⑦左右について高さの調整を行ない、規定の高さに下刃の位置が決まったら固定用高ナットを確実に締め、前ローラーの高さを固定してください。

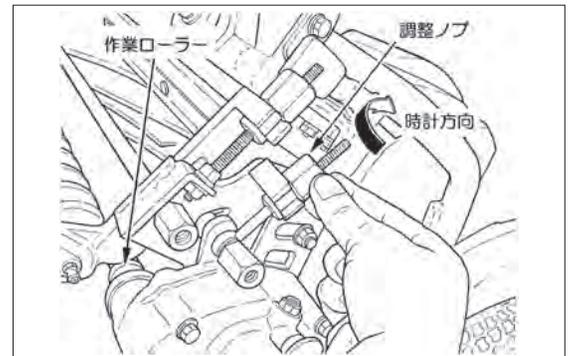


⑧作業ローラー高さ調整ノブ（右）、（左）の固定用高ナットをゆるめてください。

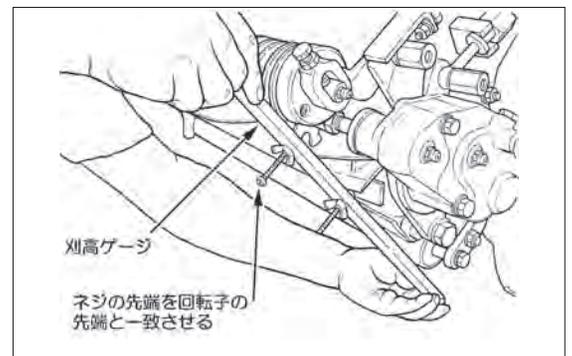


⑨前ローラーの地面に接触する部分と後ろローラーに刈高ゲージを当て、ゲージのネジの突き出し長さが、作業ローラーの先端と一致するように、作業ローラー高さ調整ノブを回してください。

- 作業ローラー高さ調整ノブを時計方向に回すと作業ローラーが上がり、反時計方向に回すと下がります。



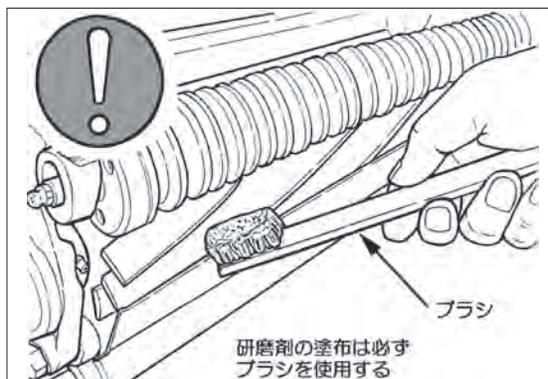
⑩左右について高さの調整を行ない、規定の高さに、作業ローラーの位置が決まったら固定用高ナットを確実に締め、作業ローラーの高さを固定してください。



■ ラッピング（刈刃の研磨）による切れ味の調整

⚠ 警 告

- 必ずエンジンを停止し、主クラッチ、刈刃クラッチ、作業ローラークラッチの接続を解除してラッピングを行なってください。
- ラッピングマシンでの刈刃回転中は、手や足、衣服を刈刃の回転範囲内に絶対入れないように注意してください。
- 研磨剤は、必ずブラシで刈刃に塗布してください。

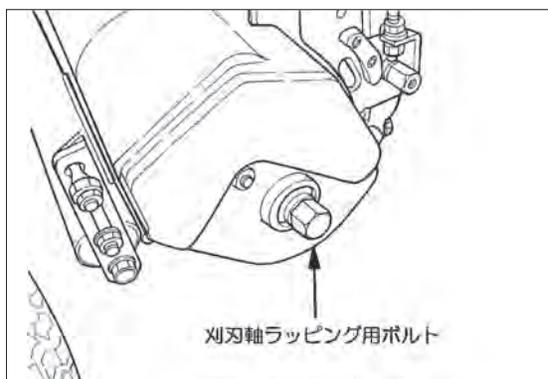


重 要

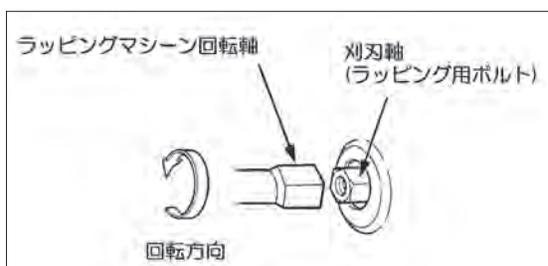
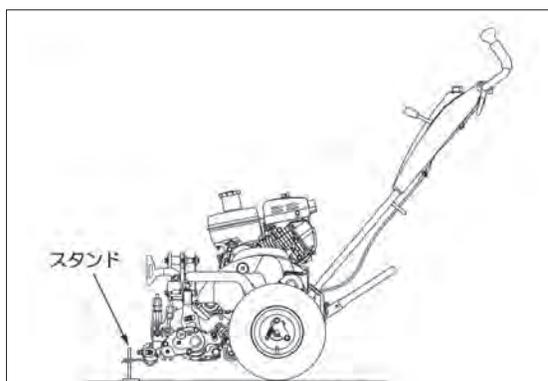
- ラッピングには当社規定の研磨剤、ラッピングコンパウンド#180～#220または同番号のラッピングカーボンを使用してください。
- 刈刃の切れ味の悪い箇所には研磨剤を絶対に塗らないでください。



- ラッピングには新聞紙を50mmほどに裂き短冊型にしたものと、ラッピングコンパウンドまたはラッピングカーボンをオイルまたは中性洗剤と混合した研磨剤を用意してください。
- 研磨剤の混合比は体積比で
ラッピングカーボン1：オイル（中性洗剤）3～4です。



- ①平坦な場所に、ラッピングマシンを設置し、ラッピングマシンの回転軸が適応できる高さを確認してください。
- ②ラッピングマシンに付属のスタンドを立て、ストッパーを握り、V形の部分の高さを前項で確認したラッピングマシンの回転軸が適応できる高さに合わせてください。
- スタンドは前ローラーの左右2ヵ所に設置してください。
- ③芝刈機本体を後方に倒し、前ローラーをスタンドのV形の部分に載せ、ラッピングマシンの回転軸と刈刃軸の中心を合わせ確実に結合してください。



④短冊型に裂いた新聞紙を刃と下刃の間にはさみ、刃合わせ金具で刃を上から下に回して切り、切れ味をテストして切れ味の良いところにチョークなどで印をつけてください。

⑤ブラシにラッピングコンパウンドをつけ④で印をつけたところの刃の上面に均一に塗布し、ラッピングマシンのスイッチの逆転側を押し、刃を反時計方向（反刈取方向）に回転させてください。

●切れる部分にコンパウンドの塗布をするのは、切れる部分が高くなっているので減ってしまって低くなっている部分まで刃を削り落として合わせるためです。

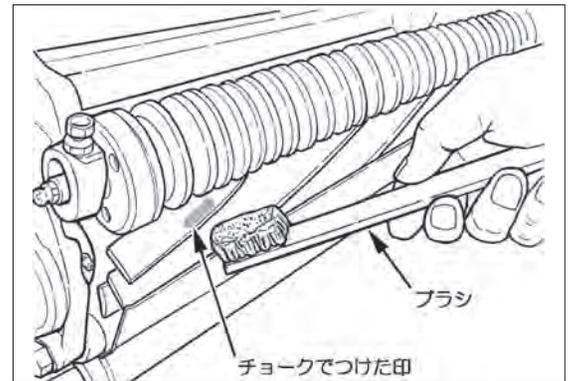
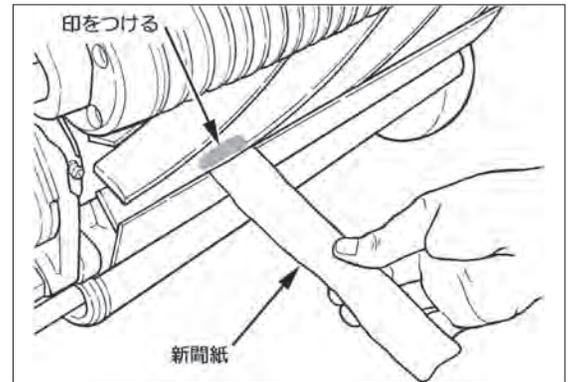
●刃と下刃が擦れ合い刃が研磨されます。

●刃と下刃があまり強く噛み合った状態でラッピングすると、カッター端部が減り、正常にラッピングできませんので、噛み合いは緩めに行なってください。

⑦段階的に研磨液の塗る箇所を、切れなかった（④で印をつけないかった）箇所に広げて研磨作業を繰り返してください。

⑧均一に刃を研磨したら、最後にラッピングコンパウンドを刃全体に均一に塗布し、刃を反時計方向（反刈取方向）に回転し仕上げ研磨をしてください。

⑨仕上げ研磨をしたら、刃と下刃を水でよく洗い流し研磨剤を取り除いてください。



重要

●高圧洗浄機による洗浄はしないでください。ラベルの剥がれ、機械の破損の原因になります。

●26ページ「切れ味の調整」に従って、切れ味をテストしながら刃と下刃の間隔を調整してください。

■ 各部の調整

〈エンジン各部の調整〉

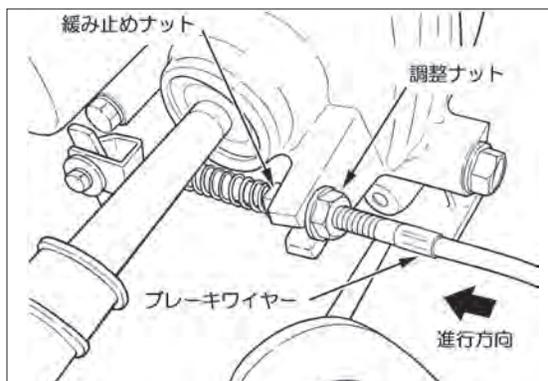
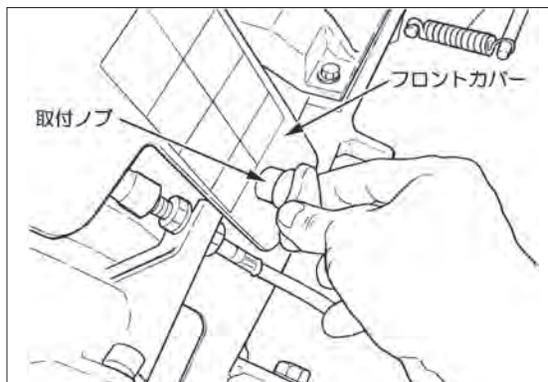
- キャブレター（気化器）調整など、エンジントラブルにかかわる調整は、本機基本的性能に影響しますので、営業所、販売店にご用命ください。

〈ブレーキの調整〉



警 告

- 必ずエンジンを停止し、主クラッチ、刈刃クラッチ、走行変速ノブの接続を解除してブレーキの調整を行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジンが冷めるのを待って調整を行ってください。



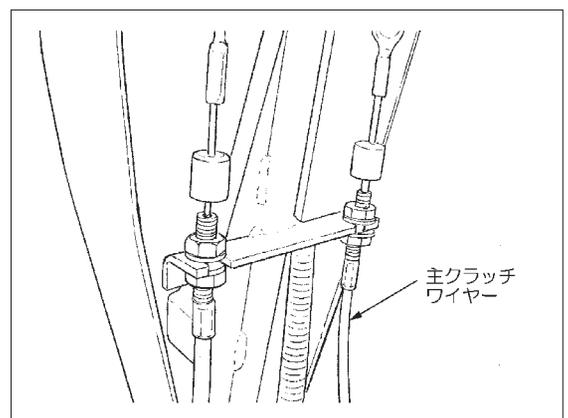
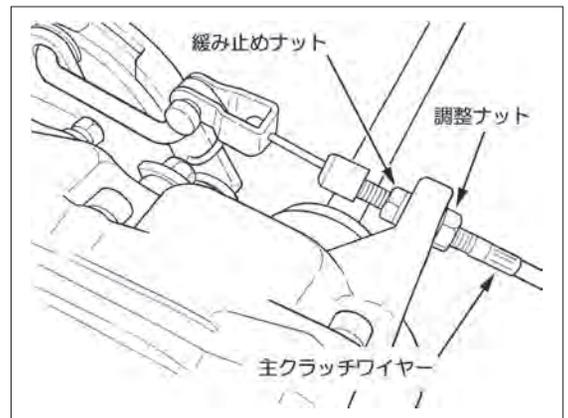
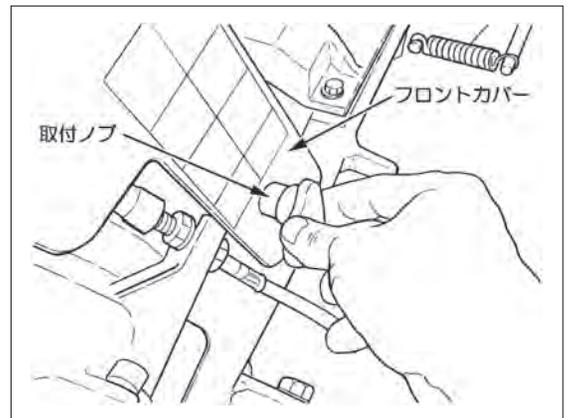
- ①フロントカバー取付ノブを反時計方向に回転させ緩め、手でカバーを上方向に開いてください。
 - ②ブレーキワイヤー緩み止めナット2個をスパナで互いに反対方向に回転させ緩めてください。
 - ③ブレーキレバーをいっぱい握った時（ロック状態）、本機を手前に引っぱり搬送タイヤがロックするように調整してください。
 - ④調整が終了したら、緩み止めナット2個を互いに②とは逆の方向に締め付けてワイヤーの長さを固定してください。
 - ⑤フロントカバーを閉め、フロントカバー取付ノブを時計方向に止まるまで回転させ、フロントカバーを固定してください。
- 調整後17ページ「ブレーキの動作チェック」に従って、ブレーキの動作を確認してください。
 - ブレーキレバーを離れたとき、「ブレーキが作動していない」ことも確認してください。

〈主クラッチの調整〉


警告

- 必ずエンジンを停止し、主クラッチ、刈刃クラッチの接続を解除してクラッチの調整を行なってください。
- エンジン停止直後は、エンジンが冷めるのを待って調整を行なってください。

- ①フロントカバー取付ノブを反時計方向に回転させ緩め、手でカバーを上方向に開いてください。
- ②クラッチワイヤー緩み止めナット2個をスパナで互いに反対方向に回転させ緩めてください。
- ③クラッチレバーを「作動」側に倒した時、ハンドル裏側のスプリングが4～5mm伸びるように調整してください。
- ④調整が終了したら、緩み止めナット2個を互いに②とは逆の方向に締め付けてワイヤーの長さを固定してください。
- ⑤フロントカバーを閉め、フロントカバー取付ノブを時計方向に止まるまで回転させ、フロントカバーを固定してください。
 - 調整後17ページ「主クラッチの作動チェック」に従って、主クラッチの作動を確認してください。
 - 主クラッチが「停止」の位置で、走行変速ノブが「H」または、「L」の状態、リコイルスタータを引いて、本体が動かないことにより、主クラッチが接続されていないことを確認してください。
- ⑥ハンドルの裏側にあるクラッチワイヤー取付金具位置でもクラッチワイヤーの調整が可能です。フロントカバー内で調整が不足の場合は、この箇所と同様の調整を行なってください。



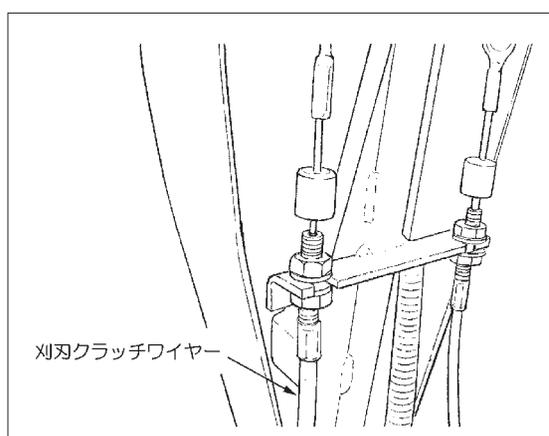
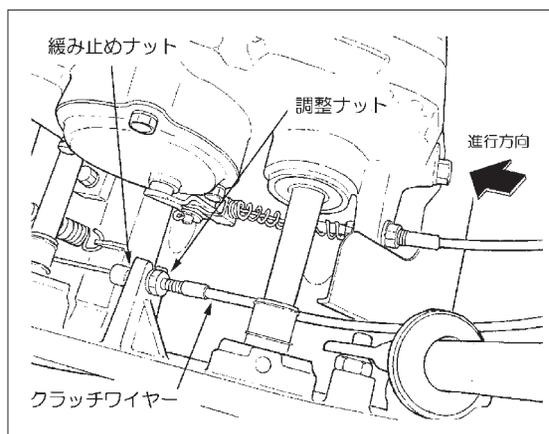
〈刈刃クラッチの調整〉



警 告

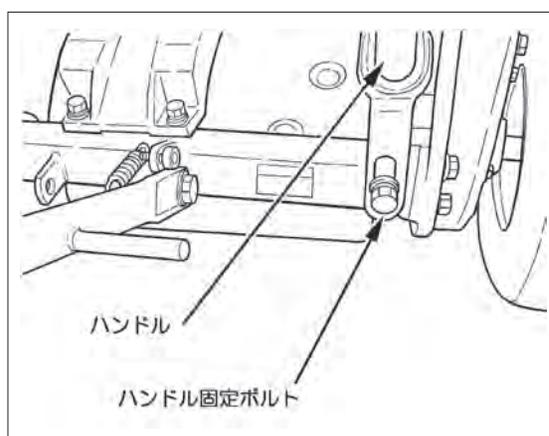
- 必ずエンジンを停止し、刈刃クラッチの接続を解除してクラッチの調整を行なってください。
- エンジン停止直後は、エンジンが冷めるのを待って調整を行なってください。

- ①本機フレーム側クラッチワイヤー緩み止めナット2個をスパナで互いに反対方向に回転させ緩めてください。
- ②クラッチレバーを「作動」側に倒した時、ハンドル裏側のスプリングが4～5mm伸びるように調整してください。
- ③調整が終了したら、緩み止めナット2個を互いに①とは逆の方向に締め付けて、ワイヤーの長さを固定してください。
 - 調整後、18ページ「刈刃クラッチの作動チェック」に従って、刈刃クラッチの作動を確認してください。
- ④ハンドル裏側にあるクラッチワイヤー取付金具位置でもクラッチワイヤーの調整が可能です。本機フレーム側で調整が不足の場合は、この箇所でも同様の調整を行なってください。



〈ハンドル高さの調整〉

- 作業者の体格に合わせハンドルの高さを調整し芝刈作業を行ってください。
- ①芝刈機の本体後部左右にあるハンドル固定ボルトをゆるめてください。
 - ②ハンドルを上下しハンドルが作業に適した高さになるように調整し、固定ボルトを締め、ハンドルを固定してください。
 - 上記の調整を行っても、作業者の身長などにより適切な位置にハンドルの高さが調整できない場合は、お買い求めの営業所または販売店に調整をご依頼ください。



〈刈取り位置の調整（オフセット移動システム）〉



警 告

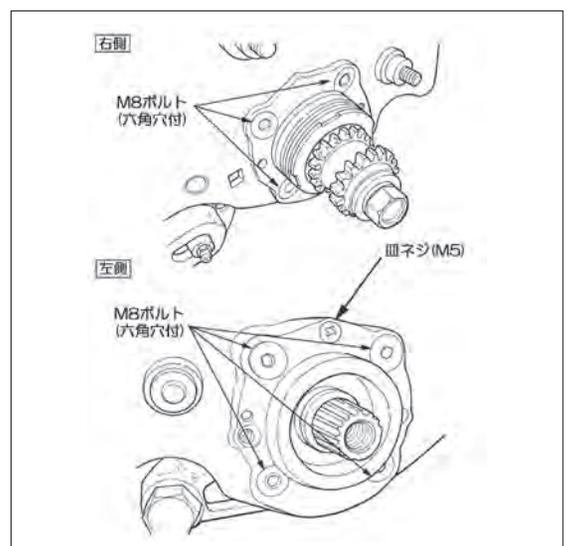
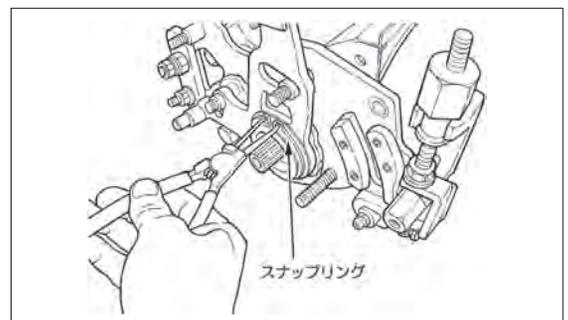
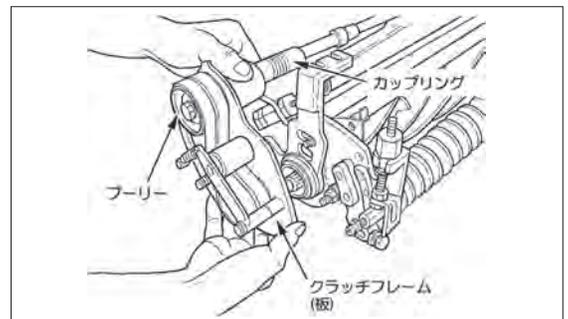
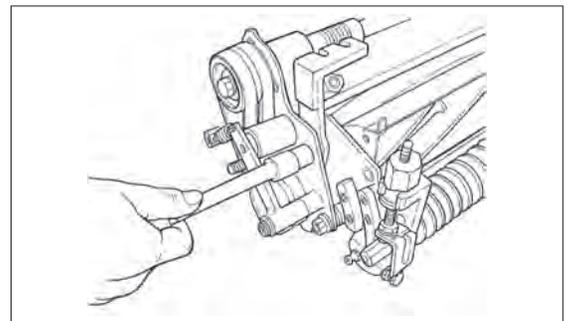
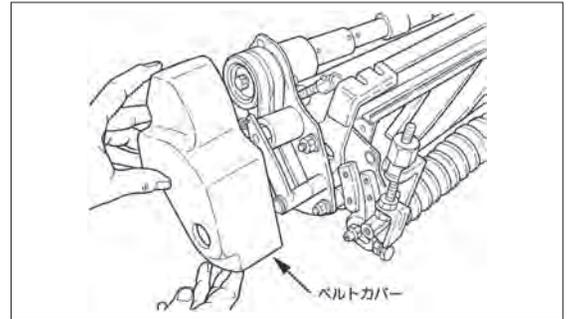
- 必ずエンジンを停止し、主クラッチ、刈刃クラッチの接続を解除してください。

- グリーン上の芝生を、お客様の好みに合わせて刈るには、刈取り位置の調整をする必要があります。一度芝生を刈り、その結果をみて調整してください。

※芝生への喰い込み方に不満がある時以外は、調整をしないでください。

- 調整することにより、芝生への喰い込み方が変わってきます。
- 本機からリールユニットを外します。(40ページ「リールユニットの着脱」を参照してください。)

- ①リールユニットを作業台等の上に置いてください。
- ②カッターカバーを締め付けている3個のM8用フランジナットを緩めて外し、遮風板と一体で外します。
- ③ベルトカバーを締め付けているM8用ロックナットを緩めて外し、ベルトカバーを外します。
- ④カッタープーリーを締め付けているラッピングボルトをインパクトレンチ等を使用し緩めて外し、プーリーを外します。
 - ラッピングボルトは左ネジですので、注意してください。
- ⑤クラッチフレームを締め付けている4個のM8用フランジナットを緩めて外し、カップリング・プーリー等付いた状態のアセンブリーでクラッチフレームを外します。
- ⑥左側フレームのゴムキャップ（サッチングギヤボックス）を外します。
- ⑦アームブラケット抜止め用スナップリングを外し、アームブラケット左右・スラストワッシャを外します。
- ⑧左右のカッターメタル：OUT を締め付けている4本のM8ボルト（六角穴付）は緩め、位置決め用M5ネジは外してください。（出荷時は、「6」の位置にしております。）
 - この状態で必ず刃合わせを行なってください。
 - 刃合わせ後、左右の下刃調整ハンドルを1/3回転増し締めしてください。（時計方向）
- ⑨左右の下刃調整ハンドルを持ち、動かすと、刈刃軸を中心に刈取り位置（刈刃と下刃の合わせ位置）が変わります。
 - 「刈取り位置による芝生への影響」は48ページを参照してください。
- ⑩組み立て時は、位置決め用M5ネジを締め付け、左側カッターメタル：OUT から先に4本のM8ボルト（六角穴付）にて、固定してください。



〈遮風板の調整〉



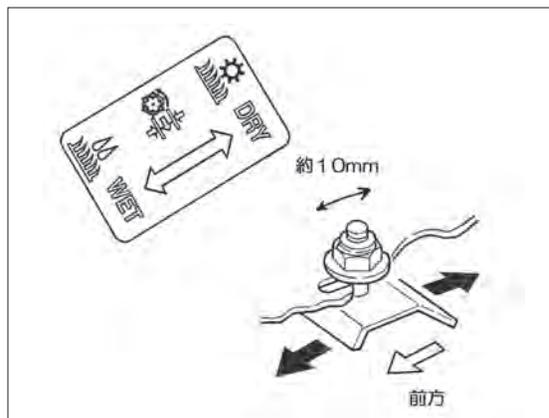
警 告

- 必ずエンジンを停止し、主クラッチ、刈刃クラッチの接続を解除してください。

- バケットへの芝屑の飛び方は、芝生の状態によって変わります。一度芝生を刈り、その結果を見て調整してください。
- 調整することにより、芝屑の飛び方が変わります。
- 本機からリールユニットを外しておいてください。(40ページ「リールユニットの着脱」を参照してください。)



- ①リールユニットを作業台等の上に置いてください。
- ②カッターカバーを締め付けている3個のM8用フランジナットを緩めてください。
- ③カッターカバーは、そのままの位置とし、遮風板を前後に動かしてください。
 - 芝生が濡れている時や、走行スピードが遅い時、刈刃回転が遅い時は、遮風板を手前の位置にしてください。
 - 芝生が乾いている時や、走行スピードが速い時、刈刃回転が速い時は、遮風板を奥の位置にしてください。



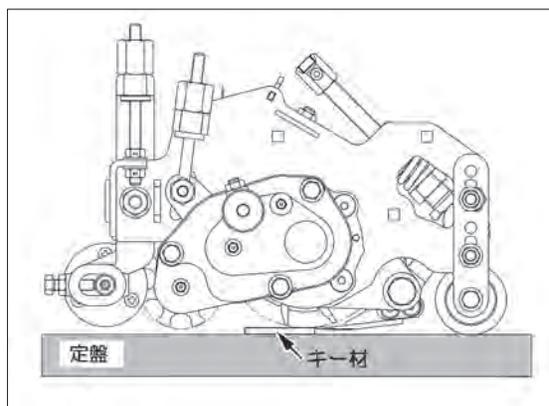
〈後ろローラの調整 (刈刃の芯出し作業)〉



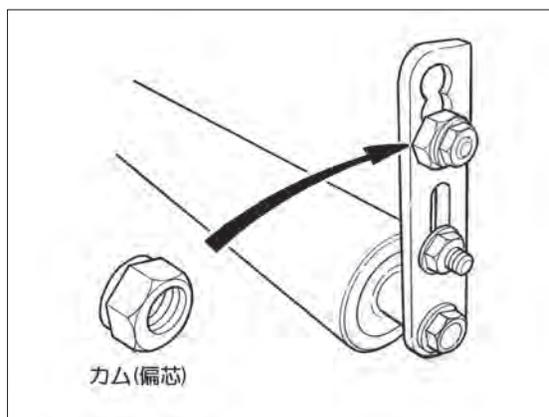
警 告

- 後ろローラの調整は、必ずエンジン停止後、行なってください。

- 本機からリールユニットを外します。(40ページ「リールユニットの着脱」を参照してください。)



- ①リールユニットを定盤の上に置いてください。
- ②刈刃の真下と、下刃の先端に当るように、5～6mmのキー材を、左右2ヶ所に置きます。
 - この時、前ローラ・作業ローラは定盤に当たらないように上げておいてください。
- ③後ろローラブラケットを締め付けている4個のM8用フランジナットを緩めて外し、希望の穴位置にずらし、M8用フランジナットを軽く締めます。(高さは28ページ下表を参照してください。)
- ④刈刃をキー材に当てたまま、後ろローラの下に短冊型に切った新聞紙を入れ、定盤と後ろローラのすき間を確認します。
 - 幅方向、左右とも、すき間が0.1mm以内になるよう偏芯カムで調整します。



- ⑤すき間の調整が終わったら、偏芯カムが回らないように押さえながら、M8用フランジナットを締め付けてください。

7. 保 守

■ 点火プラグの点検と交換



警 告

- 点火プラグの点検／交換中は喫煙したり火気を近づけないでください。

- 点火プラグは使用時間100時間ごとに点検し、エンジンの始動が困難になったら交換してください。

①点火プラグコネクタを手前に引き外してください。

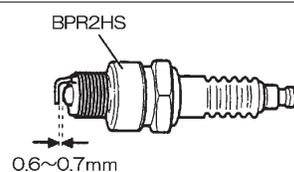
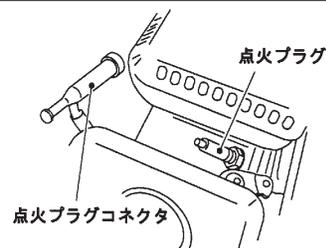
②付属のプラグ回しを点火プラグに差し込み反時計方向に回し、プラグを取り外してください。

③点火プラグに付着したカーボン（スス）をワイヤーブラシでおとしてください。

- スキ間ゲージをお持ちの場合は、電極間のスキ間が0.6~0.7mmになるように電極を調整してください。

④元の位置に点火プラグを取り付け、プラグ回しで時計方向に確実に締め、点火プラグコネクタを止まるまで差し込んでください。

- 交換の場合は BPR2HS を取り付けてください。



■ 主クラッチの整備



警 告

- 主クラッチの整備は、必ずエンジン停止後行なってください。
- エンジン停止直後は、エンジンが冷めるのを待って整備してください。
- 主クラッチの整備を行わないと、本機の暴走により重大な傷害を伴う事故につながります。

- 主クラッチは使用時間50時間ごとに整備してください。

①フロントカバー取付ノブを反時計方向に回転させ緩め、手でカバーを上方向に開いてください。

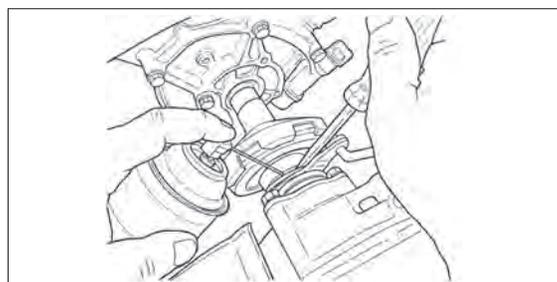
②主クラッチレバーを「作動」側に倒し、クラッチディスクを手でエンジン側に押しつけ、主クラッチレバーを元の位置に戻してください。（クランプなどを使用すると簡単です。）

③クラッチディスクに取付けられているベアリングと、カムレバーの間に、マイナスドライバーを差し込み、すき間をつくります。

④すき間の中の軸に向けて、粘度の高いスプレーグリス（モリブデン系）を十分に吹きかけます。

⑤マイナスドライバーを外し、主クラッチレバーを10回程度「作動」「解除」の順で動かします。

- 主クラッチの整備を行ってもクラッチが正常に作動しない場合は、クラッチのオーバーホールが必要です。



■ 芝刈機本体の清掃

⚠ 警 告

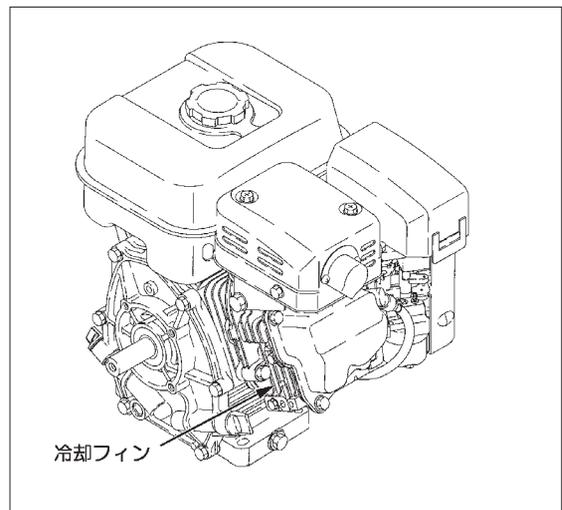
- エンジンの冷却フィン、作業終了後、毎回清掃しフィン間のゴミ、堆積物を取り除いてください。エンジンの過熱を招き、車両火災の原因となります。
- 清掃はエンジンの冷却を確認して行ってください。

重 要

- エンジンの冷却フィン、マフラー（消音器）など高温部は水洗いをしないでください。水に濡れたまま高温にさらされると変形や亀裂の原因になります。

重 要

- 高圧洗浄機による洗浄はしないでください。ラベルが剥がれ、機械の破損の原因になります。

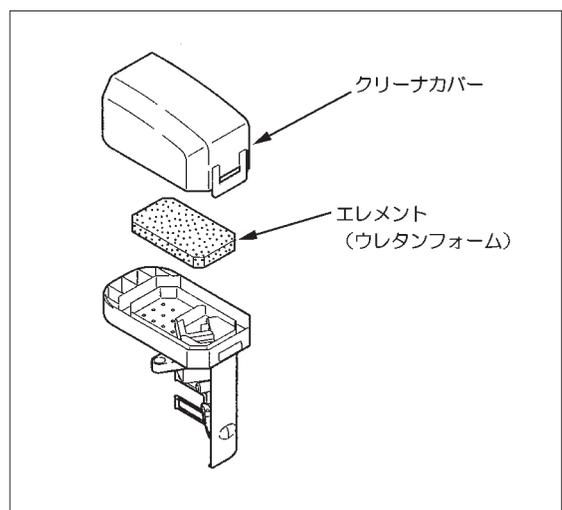


- 芝刈機は芝刈作業終了後、毎回清掃してください。特に芝屑にさらされるエンジンの冷却フィンは堆積物が付着しやすく、エンジンを過熱させ、火災の原因になります。
- エンジンの冷却フィンはブラシで芝屑や堆積物を取り除いてください。取れない汚れがある場合には部分的に水洗いをし、水分を完全に拭き取って乾燥させてください。

■ エアークリーナーの清掃

- エアークリーナーは作業時間50時間ごとに清掃してください。
- エアークリーナーのエLEMENTに変形や、目詰まりがあった場合は交換部品を営業所、販売店に請求し交換してください。

- ①エアークリーナーカバーの上面の蝶ナットを緩めて外し、エアークリーナーカバーをはずしてください。
- ②ELEMENTを取り出し、灯油又は家庭用中性洗剤で洗って、乾燥させてからエンジンオイルに浸し固く絞ってから取り付けてください。
- ③ELEMENTは平らな所で軽くたたきながらほこりを落とすか、圧縮空気を内側（取り付け時のエンジン側）より吹きつけゴミを吹き飛ばしてください。
- ④きれいになったELEMENTを元の位置に入れ、エアークリーナーカバーを取り付けてください。



■ ストレーナの清掃

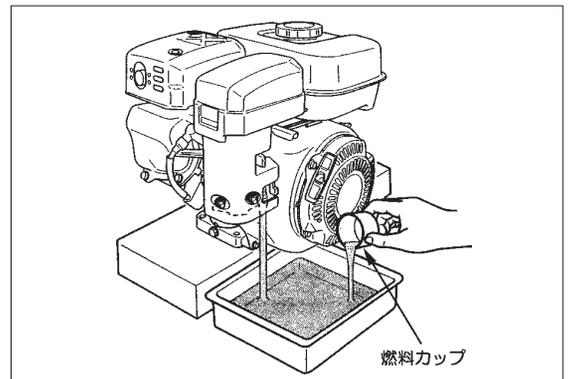
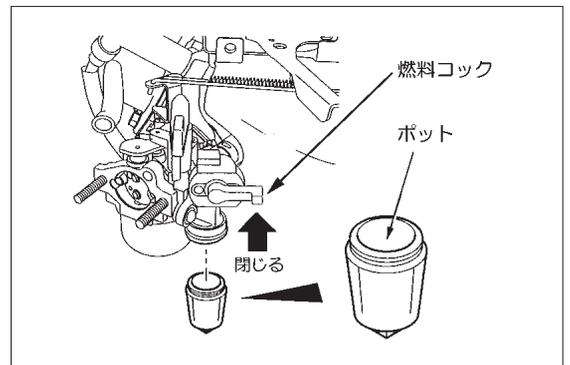
警告

- 必ずエンジンを停止し、ストレーナの清掃をしてください。
清掃中は喫煙したり火気を近づけたりしないでください。
- エンジン停止直後は、エンジンが冷めるのを待って清掃を行なってください。
- ストレーナの清掃中は換気に注意してください。
- 清掃の際こぼれた燃料は、必ず拭き取ってください。



- ストレーナは毎日点検し、作業時間100時間ごとに清掃してください。
- 上記時間に満たない場合でもストレーナ内部に沈殿物を発見した場合は、すぐに清掃してください。

- ①燃料コックを「閉」の状態にしてください。
- ②ストレーナの下部にある四角形の突起をスパナで反時計方向に回転させ、ゆるめてからゆっくりはずしてください。
●ストレーナのポット内には燃料が入っていますので、徐々にゆるめてはずしてください。
- ③燃料で変質しない容器に、燃料をポット全体が入るだけ入れ、容器の中でポット、フィルター、パッキンを燃料で洗ってください。
●沈殿物が容易に取れない場合は、燃料に漬けておいてから洗ってください。
- ④フィルター、パッキン、ポットを元の位置に取り付け、ストレーナの外部についた燃料を布などで完全に拭き取ってください。

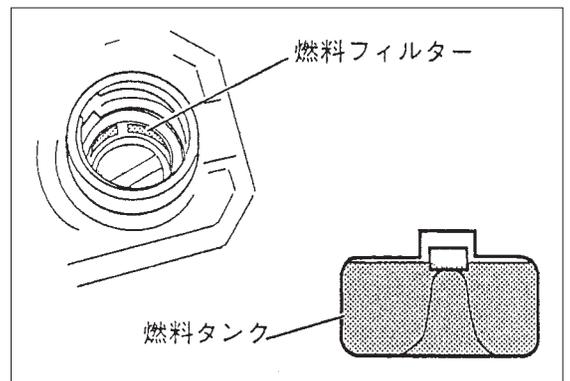


■ 燃料フィルターの清掃

警告

- 必ずエンジンを停止し、清掃してください。
- 清掃中は喫煙したり火気を近づけたりしないでください。

- 燃料フィルターは、作業時間100時間ごとに清掃してください。
- ①燃料キャップを反時計方向に回して緩め、取り外してください。
 - 給油口の内部には燃料フィルターがあります。
 - ②燃料フィルターを点検し、ゴミや沈殿物などの汚れがあった場合は、給油口から抜き取り、燃料で洗って汚れを落としてください。
 - 燃料フィルターを傷めないように注意して、着脱してください。
 - 燃料フィルターに穴があいているなど、傷んでいたら、営業所、販売店に部品を請求し交換してください。



■ リールユニットの着脱



警 告

- リールユニットの着脱は、必ずエンジン停止後、行なってください。

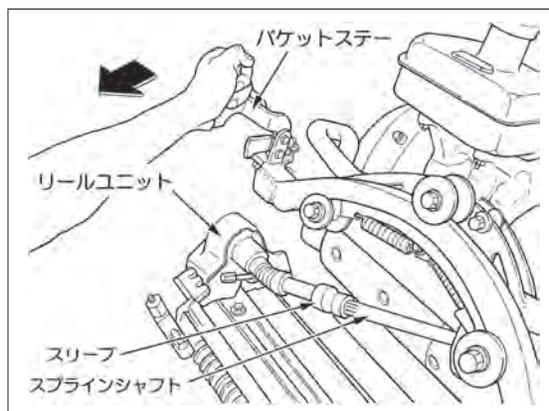
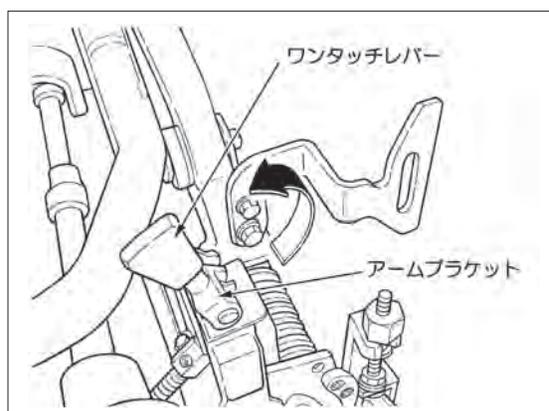
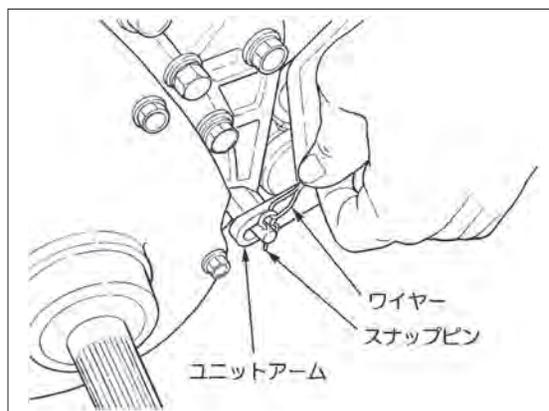
- 着脱作業の前に、搬送用タイヤを外しておきます。(12ページ「スタンドの立て方と搬送用タイヤの着脱」を参照してください)
- 平らな場所に機械を置いてください。

〈リールユニットの取り外し方〉

- ① 本機左右に付いている、ワイヤを上方向に引張り、スナップピンを抜き、ユニットアームを外します。(スナップピン：左右2箇所、ユニットアーム：左右1箇所)
- ② ワンタッチレバー(左右)を、上方向に引き上げます。
- ③ アームブラケット(左右)を、前方向に引っ張り、ローリングアームから切り離します。
- ④ バケットステーを両手で持ち、本機を後ろ方向にゆっくり倒します。
- ⑤ リールユニットを手前に引き出し、本機とリールユニットを繋ぐ、スプラインシャフトとスリーブを切り離すと、リールユニットが本機から外れます。

〈リールユニットの取り付け方〉

- ① ハンドルを下方方向に倒し、本機を寝かせてください。
- ② リールユニットを本機の手前にセットし、スプラインシャフトとスリーブを繋いでください。
- ③ バケットステーを両手で持ち、本機を引き起こします。
- ④ アームブラケット(左右)を、ワンタッチレバー下にスライドさせ押し込みます。
- ⑤ リールユニットの取り外し方の逆の手順で組み立ててください。



■ 下刃台の着脱



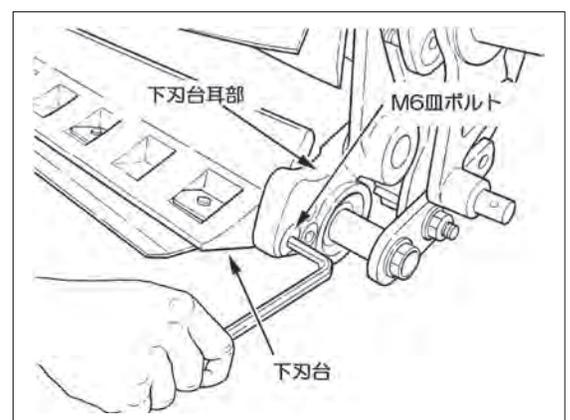
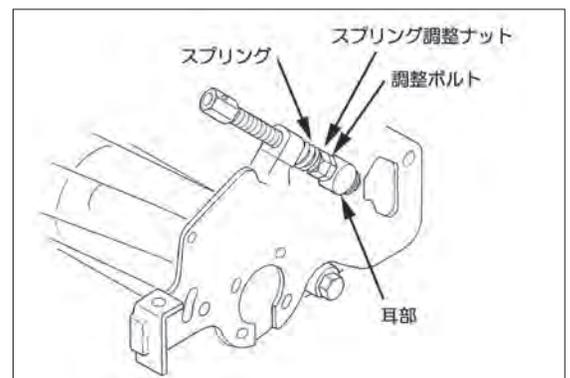
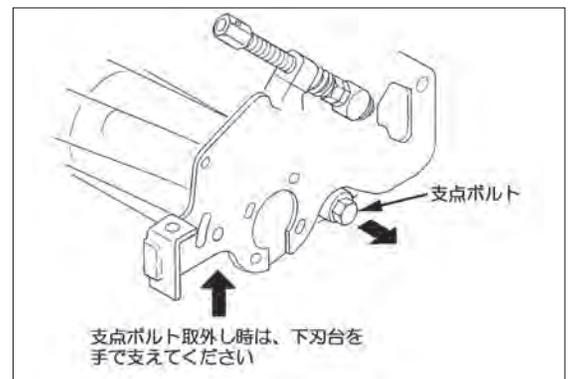
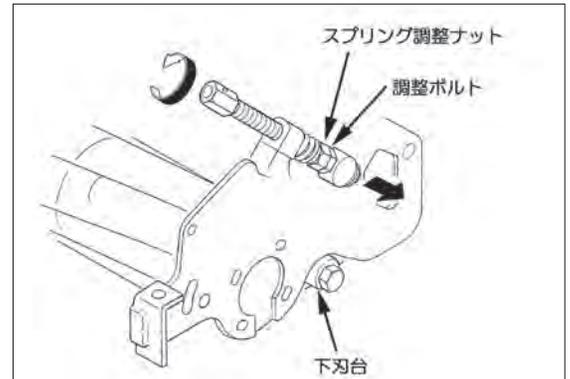
警 告

- 下刃台の着脱は、必ずエンジン停止後、行なってください。
- 下刃台の着脱は、厚手の手袋か皮手袋を着用してください。

- 本機からリールユニットを外します。(40ページ「リールユニットの着脱」を参照してください。)

〈下刃台の取り外し方〉

- ① リールユニットを作業台等の上に置いてください。
- ② 下刃調整ハンドル左右を反時計方向に半回転させて、下刃と刈刃のすき間を開けてください。
- ③ カッターカバーを締め付けている3個のM8用フランジナットを緩めて外し、遮風板と一体で外します。
- ④ 下刃台耳部上の調整ボルト（左右）をスパナ等で押え、スプリング調整ナットを緩めます。(調整ボルトヘッドにつくまで)
 - 下刃台が上下に動くことを確認してください。
- ⑤ 下刃台の支点ボルト（左右）を緩めて外します。
 - 下刃台の支点ボルト取り外し時は、下刃台を手でささえてください。
- ⑥ 下刃台耳部（左右どちらか）を締め付けている、2本のM6皿ボルトを緩めて外し、下刃台耳部（左右どちらか）と、下刃台を分割させます。
- ⑦ リールユニットの刈刃と後ろローラの間（下側）から、下刃台を抜き取ります。
 - 下刃台の取り外し方の逆の手順で組み立ててください。



■ 刈刃の着脱



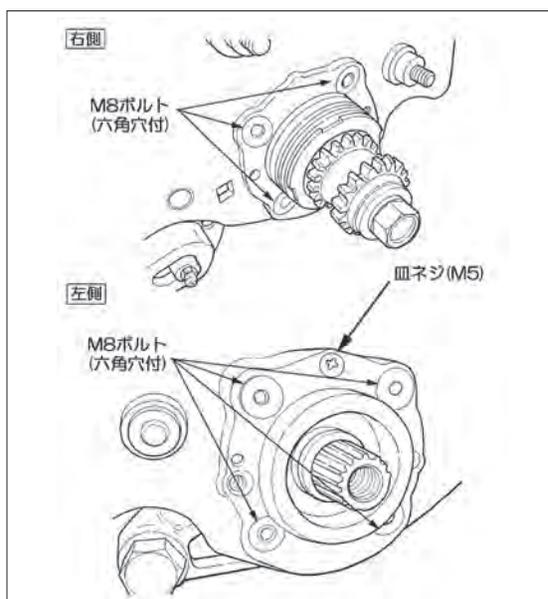
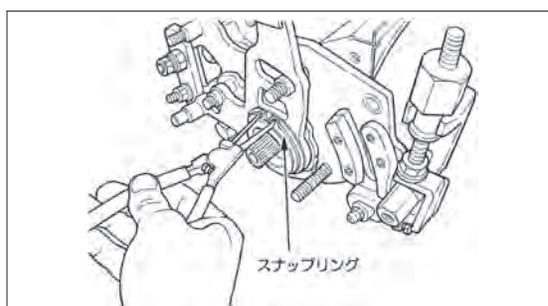
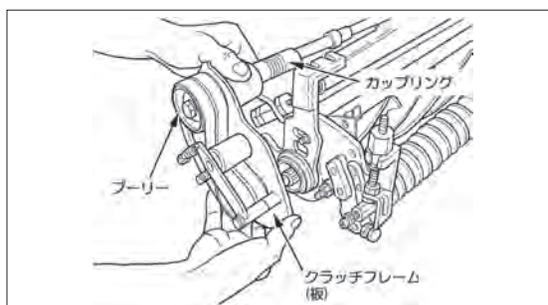
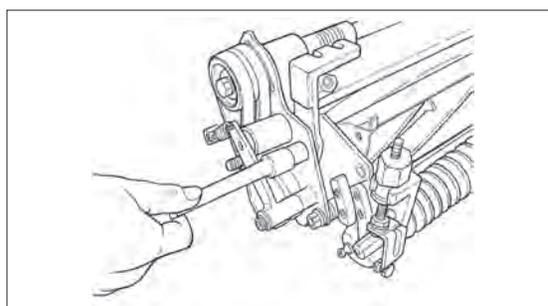
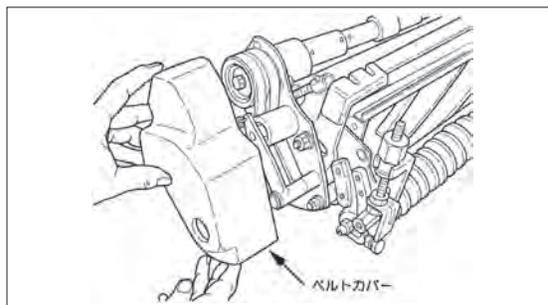
警 告

- 刈刃の着脱は、必ずエンジン停止後、行なってください。
- 刈刃の着脱は、厚手の手袋か皮手袋を着用してください。

- 本機からリールユニットを外します。(40ページ「リールユニットの着脱」を参照してください。)

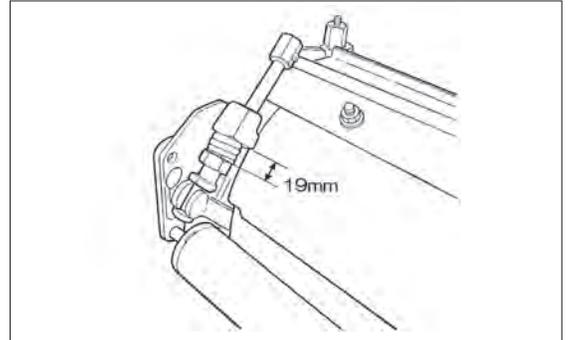
〈刈刃の取り外し方〉

- ① リールユニットを作業台等の上に置いてください。
- ② 下刃調整ハンドル左右を反時計方向に半回転させて、下刃と刈刃のすき間を開けてください。
- ③ カッターカバーを締め付けている3個のM8用フランジナットを緩めて外し、遮風板と一体で外します。
- ④ ベルトカバーを締め付けているM8用ロックナットを緩めて外し、ベルトカバーを外します。
- ⑤ カッタープーリーを締め付けているラッピングボルトをインパクトレンチ等を使用し緩めて外し、プーリーを外します。
 - ラッピングボルトは左ネジですので、注意してください。
- ⑥ クラッチフレームを締め付けている4個のM8用フランジナットを緩めて外し、カップリング・プーリー等付いた状態のアッセンブリーでクラッチフレームを外します。
- ⑦ 左側フレームのゴムキャップ（サッチングギヤボックス）を外します。
- ⑧ アームブラケット抜止め用スナップリングを外し、アームブラケット左右・スラストワッシャを外します。
- ⑨ 刈刃の下に角材を置き、後ろローラを締め付けている2本のM8フランジボルトを緩めて外し、後ろローラを外します。
- ⑩ 左右のカッターメタル：OUT を締め付けている4本のM8ボルト（六角穴付）及び、位置決め用M5ネジを緩めて外します。
- ⑪ 左右のカッターメタル：OUT を引き抜くと刈刃が下刃台ごと下に外れます。



〈刃刃の取り付け方〉

- 刃刃軸にカッターメタルを左右、下刃台を取り付け、刃合わせをした状態にしておいてください。
 - 下刃調整スプリングの圧縮長は、刃合わせ時に、19mmになる様に調整してください。
 - 刃合わせ後、左右の下刃調整ハンドルを1/4又は、1/3回転増し締めし、刃刃と下刃が動かない様にしてください。
- ① 刃刃をカッターフレームの真ん中にくる様にセットし、カッターメタル：OUT（左右）を、刃刃軸にセンターに合う様に入れてください。
 - ② オフセット位置決め用M5ネジを、「6」又は「4」、「8」の位置に入れ、位置決めをしてください。（標準は「8」）
 - ③ 右側カッターメタル：OUT（M5ネジ側）から先に、M8ボルト（六角穴付）を締め付けてください。
 - ④ 刃刃の外し方の逆の手順で組み立ててください。



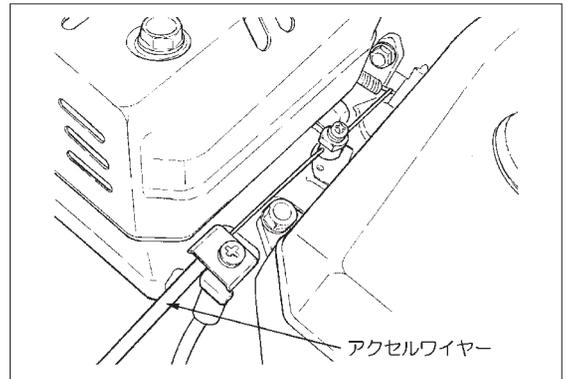
■ エンジンの着脱

⚠ 警 告

- エンジンの着脱は、必ずエンジンを停止後、行なってください。
- エンジン停止直後は、エンジンが冷めるのを待って行なってください。

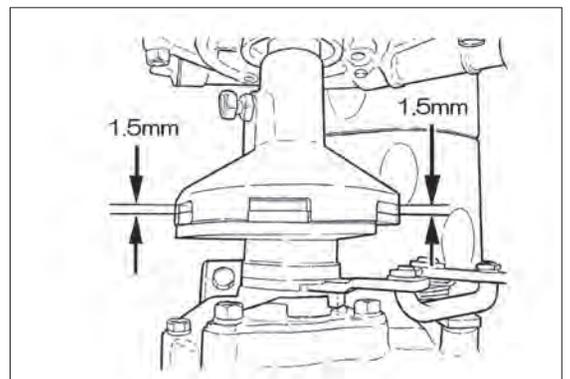
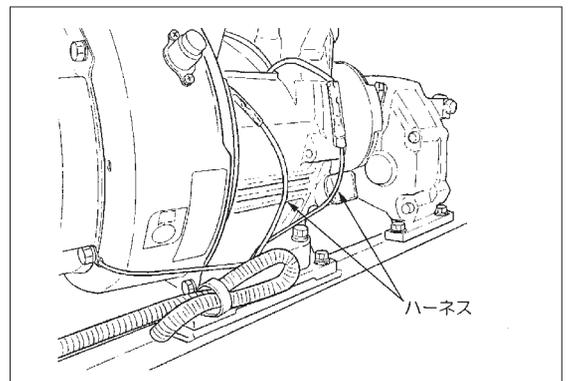
〈エンジンの取り外し方〉

- ① エンジンに固定されている、スロットルワイヤーを外してください。
- ② エンジンに固定されている、ワイヤーハーネスを外してください。
- ③ エンジンを固定している4本の M8ボルトを緩めて外すと、エンジンがクラッチハウジングごと外れます。



〈エンジンの取り付け方〉

- ① エンジンにクラッチハウジングを取り付けてください。
- ② エンジンを持ち上げ、エンジン台の上に乗せてください。
- ③ クラッチフェーシングとハウジングが合うように位置決めし、エンジンを固定する4本の M8ボルトを仮締めしてください。
- ④ 主クラッチレバーを「作動」側に倒し、クラッチフェーシングと、クラッチディスクを固定します。
- ⑤ クラッチハウジングとフェーシングの隙間を、1.5mmになるように調整してください。
- ⑥ シックネスゲージを前後に入れて、隙間が平行になるようにし、4本の M8ボルトで本締めしてください。



重 要

- エンジンの取り付けには、熟練が必要です。お買い求めの営業所または販売店に調整をご依頼ください。

■ 長期保管

⚠ 警 告

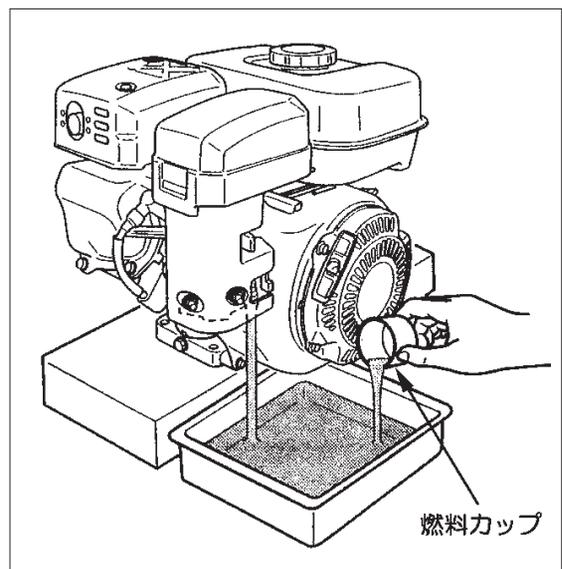
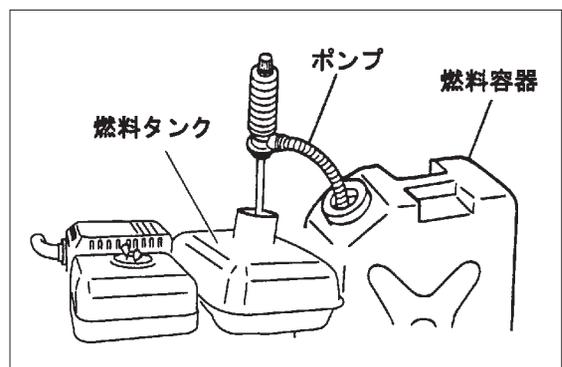
- 本機は燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないでください。



〈エンジンの処置〉

- 60日以上にわたって機械を使用しない場合、以下の処置を行なって保管してください。

- ①燃料タンクのガソリンを給油口から抜き取ってください。
 - 抜き取ったガソリンは小分けした燃料容器のまま保管せず、消防法の基準に適合した施設で保管してください。
- ②ストレーナを外し、燃料コックを開けてください。
 - 燃料タンクからストレーナまでの燃料を抜き取ることができません。
- ③ストレーナを元の位置に取り付けてください。
- ④容器をキャブレターフロート室の下に置き、キャブレターフロート室下部にあるボルトを緩め取り外してください。
 - キャブレターフロート室内の燃料がボルトから落ちてきますので、ガソリン容器に受けてください。
- ⑤燃料が抜けきったら燃料コックを閉めてください。
- ⑥キャブレターフロート室のボルトを元の位置に取り付け、確実に締めてください。
- ⑦16ページ「エンジンオイルの交換」の手順に従ってエンジンオイルを交換してください。
- ⑧リコイルスタータハンドルを引いて重く手ごたえのある所（圧縮位置）で止めてください。
- ⑨各部を油布で拭いて、カバーをかけて湿気の少ない場所を選んで格納してください。



〈本体の処置〉

- ①刃刃と下刃にグリースを塗布してください。
- ②本体はカラ拭きし、塗装がはげていないか点検してください。
 - 塗装がはげている箇所は、サビ防止の為にペンキを塗ってください。

■ グリース補給

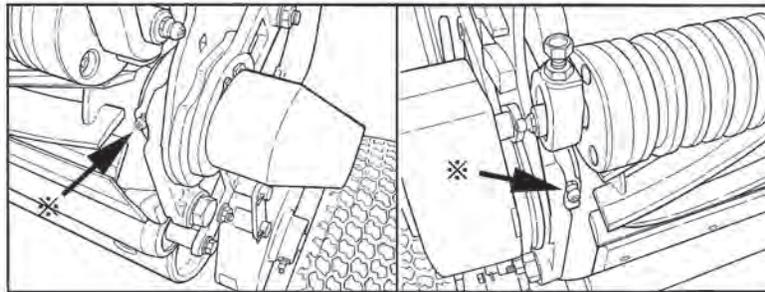


警 告

- 本機に使用するグリースは変質や劣化の起きていないものを使用してください。

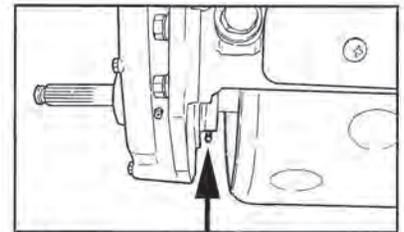
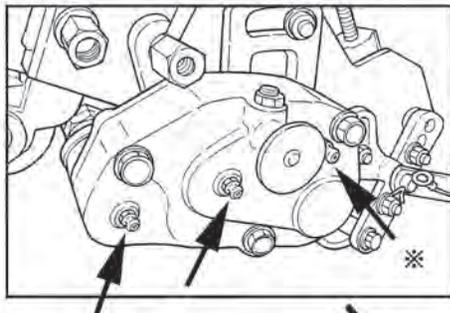
- 下図にグリース補給箇所を示しますので、作業日数15日（30時間）ごとにグリースを補給してください。

矢印→はグリースニップル(グリース補給箇所)を示します。
特に※の箇所は必ずグリースの補給をしてください。(ハンドポンプにて1回)



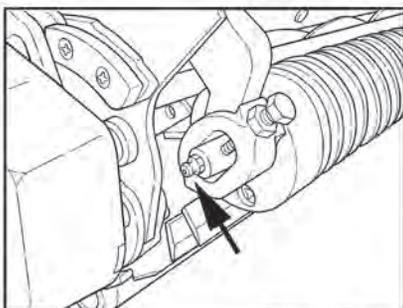
左右で2箇所

左側で3箇所

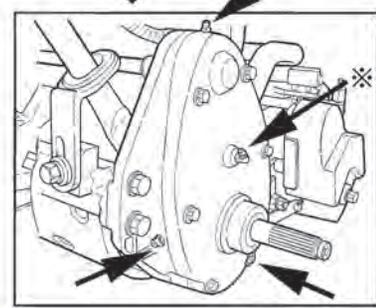


左右で2箇所

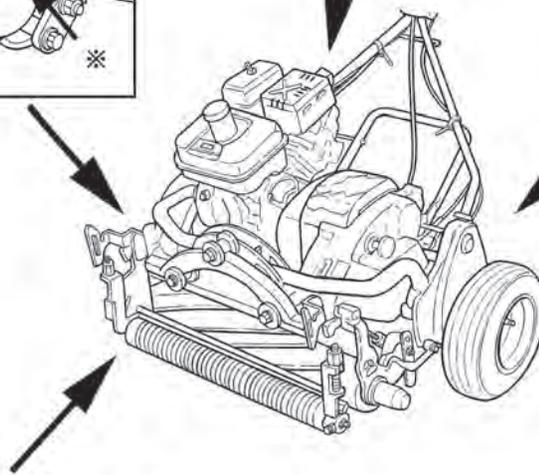
※



左右で2箇所



左右で8箇所



8. トラブルと対処

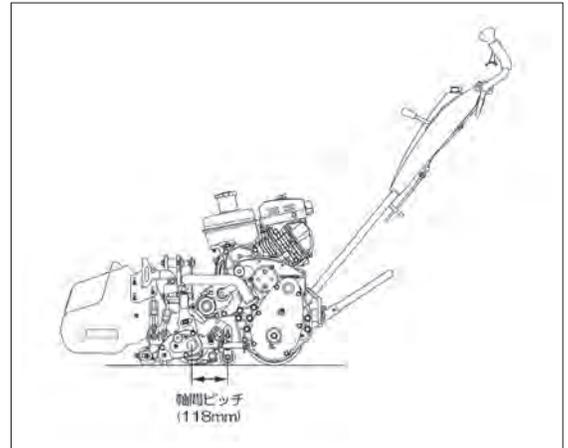
下の表に記載されていない刈刃やブレーキ、クラッチの不具合は、本書の26ページ「6. 調整」に記載の手順に従って調整を行ない、解消されない場合はお買い求めの営業所、販売店に不具合の解消をご用命ください。

不具合現象	原因	起っている現象	解決法 (P○) は掲載ページ
エンジンが始動しない	<ul style="list-style-type: none"> 燃料がエンジンに供給されていない 燃焼室内に適正な燃料が吸い込まれていない 燃料の流れが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料タンクに燃料がない 燃料コックが「閉」の位置になっている 燃料ストレーナ部のフィルターの目づまり その他 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料を補給する (P14) 燃料コックを「開」の位置にする 燃料を補給する 燃料コックを「開」の位置にする 燃料ストレーナ部のフィルターを清掃／交換 (P39) 販売店へ
エンジンが始動しにくい	<ul style="list-style-type: none"> 点火プラグに強い火花が出ない 燃料が汚れている 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチが切れている 点火プラグ電極のすき間が正しくない カーボンが付着している 点火プラグ不良 燃料の変質 その他 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを ON にする 電極間隔を0.6～0.7mmに調整 (P37) 点火プラグの清掃／交換 (P37) 点火プラグの交換 燃料の交換 (P14、44) 販売店へ
エンジンの出力不足と運転不調	<ul style="list-style-type: none"> 圧縮不足／不良 圧縮がない 圧縮が少ない その他 エンジンの加熱 およびノッキング 	<ul style="list-style-type: none"> 点火プラグのゆるみ シリンダーヘッドのゆるみ 冷却フィンの汚損 性能を超えた作業量 点火プラグが仕様に合っていない その他 	<ul style="list-style-type: none"> 点火プラグ締付け シリンダーヘッドの増締め 販売店へ 土、枯草等を除去／清掃 (P38) 適切な作業量に減らす 指定の点火プラグに交換 (P37) 販売店へ
回転変動	<ul style="list-style-type: none"> 燃料の流通不良 吸入管系統からの空気吸い込み キャブレターの調整不良 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料ストレーナ部 フィルターの目づまり 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料通路の清掃 (P39) 販売店へ 販売店へ
エンジン回転が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> 空気が十分に吸入されていない 排気に圧力がかかる 燃料の流れが少ない エンジンの加熱 	<ul style="list-style-type: none"> エアークリーナーの汚れ 排気口、マフラーのつまり 燃料フィルター目づまり 点火プラグ不良 性能を超えた作業量 その他 	<ul style="list-style-type: none"> エアークリーナーの清掃／交換 (P38) 清掃 清掃／交換 (P14) 清掃／交換 (P37) 適切な作業量に減らす 販売店へ
燃料消費が多い (黒い排気煙が出る)	<ul style="list-style-type: none"> 空気が十分に吸入されていないことによる不完全燃焼 燃料の品質による不完全燃焼 その他 	<ul style="list-style-type: none"> エアークリーナーの汚れ 不純物混入等や燃料の劣化 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃／交換 (P38) 燃料の交換 (P14、44) 販売店へ
潤滑油消費が多い (白い排気煙がでる)	<ul style="list-style-type: none"> オイルが燃焼している 	<ul style="list-style-type: none"> クランクケースのオイル多すぎ その他 	<ul style="list-style-type: none"> オイルを規定量にする (P15、16) 販売店へ

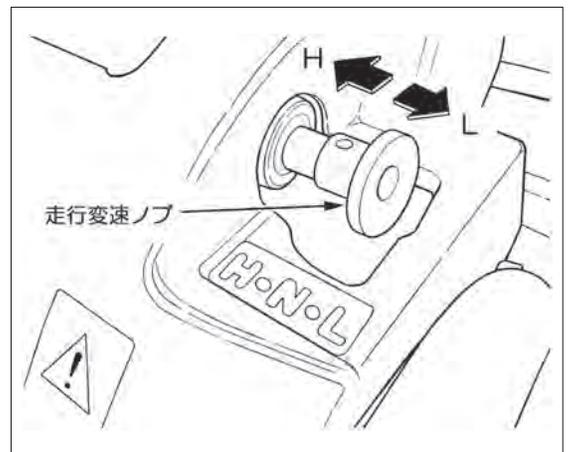
9. 特長／仕様緒元／機種構成／付属品／オプション

■ 特長

- グリーン刈りの最重要課題、業界最軽量96kgのフローティググリーンモアです。(G-FLOW22-A11)
- 業界最少軸間ピッチ118mmにより、アンジュレーションの追従性が抜群です。



- 新ミッションの開発により、車速のLOW/HI、ブレーキを内蔵しています。

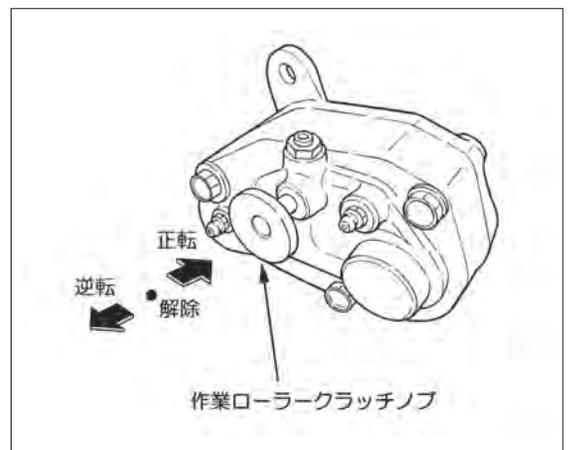


- 上記にて、カット率（カットピッチ）の変更が2段階に切替可能です。(1台2役)

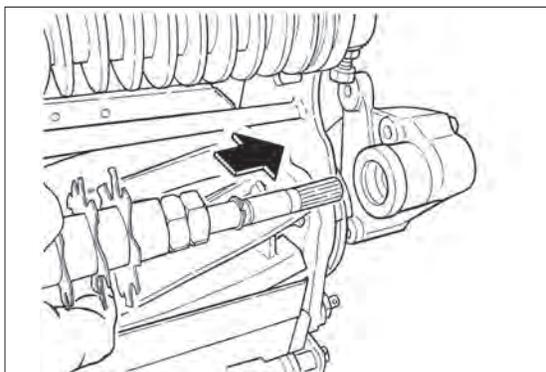
	車速 L	車速 H
カット率 mm	3.5	4.5

※上記のカット率は、11枚刃時数値です。

- アタッチメント関係（グルーミング・ブラシ）は、正転・逆転が可能です。



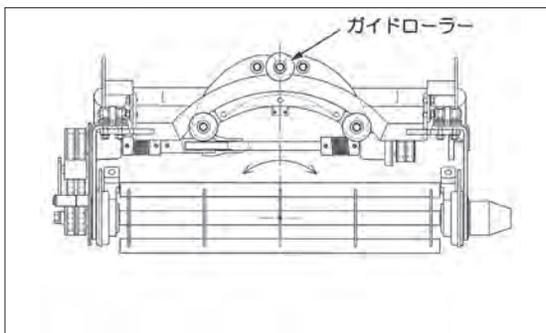
- グルーミング刃をデビルカッターに変更し、より芽引きに適した形状になっています。更に、耐久性にも優れています。
- アタッチメント関係（グルーミング・ブラシ）がワンタッチで着脱出来ます。



- バケットへのサッチ（芝屑）の飛びを、調整することが出来ます。



- 3個のガイドローラにより、リールユニット支点位置を刈刃の中心に持ってくる事に成功しました。これにより、アンジュレーションの追従性が抜群で、カジリに非常に強いです。
- リールユニットは、工具レスにて、ワンタッチで取り外しが可能です。



- G-EXEシリーズ同様、オフセット移動システムを採用しています。

■ 刈取り位置による芝生への影響

- 本機は出荷時に、刈取り位置の調整は「6」の位置にしてあります。

刈取り調整	刈取り位置	刈取り影響
6：標準		
4		芝かじり防止用 (芝への喰い込みが悪い) (ゼブラ模様はっきり出る) (低刈りに向いていない)
8		芝かき上げ用 (芝への喰い込みが良すぎる) (ゼブラ模様が殆ど出ない) (低刈りに向いている)

■ 仕様諸元

型式			G-FLOW22-A11	G-FLOW22-AC11	G-FLOW22-AD11
機 体 寸 法	全長	mm	1150	1190	1190
	全幅	mm	970		
	全高	mm	1100		
質量		kg	96	98.5	99.5
エ ン ジ ン	型式	ロビン EX13D			
	種類	空冷4サイクル傾斜型 OHC ガソリンエンジン			
	総排気量	cc	126		
	出力	kW(PS)rpm	3.2(4.5)/4000		
	質量	kg	14.9		
	燃料タンク容量	ℓ	2.7		
	点火プラグ	BPR2HS			
速度		km/h	4.3/5.5(3000rpm)		
カットピッチ		mm	車速 L:3.5 車速 H:4.5		
刈幅		mm	557		
能力		m ² /h	2100~3400		
刈高調整範囲		km/h	3(薄刃使用時2)~30(AC・AD27)		
リール径		mm	φ123		
刃数		枚	11		
下刃		mm	2.5(先端1.2) トーナメント刃標準		
装備	バケット、タイヤ				

*仕様は改良の為予告なく変更する事があります。

■ 機種構成

型式	仕様	ブラシ付	グルーミング付	回転刃(11枚)	エンジン	小径タイヤ付	大径タイヤ付	ライトKIT
G-FLOW22-A11ST				○	国内仕様	○		取付不可
G-FLOW22-AC11ST		○		○	国内仕様	○		取付不可
G-FLOW22-AD11ST			○	○	国内仕様	○		取付不可
G-FLOW22-A11DT				○	国内仕様		○	取付不可
G-FLOW22-AC11DT		○		○	国内仕様		○	取付不可
G-FLOW22-AD11DT			○	○	国内仕様		○	取付不可
G-FLOW22-A11STE				○	輸出仕様	○		取付可
G-FLOW22-AC11STE		○		○	輸出仕様	○		取付可
G-FLOW22-AD11STE			○	○	輸出仕様	○		取付可
G-FLOW22-A11DTE				○	輸出仕様		○	取付可
G-FLOW22-AC11DTE		○		○	輸出仕様		○	取付可
G-FLOW22-AD11DTE			○	○	輸出仕様		○	取付可

■ 付属品

名称	部品番号	個数/台	備考
工具袋	A95680040	1	
刃合わせ工具	A95520010	1	
刈高調整ゲージ	A95510030	1	
取扱説明書	A00810710	1	
六角レンチ	090500004	1	4mm用
六角レンチ	090500005	1	5mm用
バケット	A82010380	1	
プラグ回し		1	

■ オプション

名称	部品番号	個数／台	備考
スムースローラ：22	A72010520	1	ソリッドタイプ
普通溝グルーミングローラ：22	A72010030	1	山幅3.6mm、谷幅3.2mm
グリーブドローラ：22	A72010420	1	山幅10mm、谷幅6mm
露払いロッド	A82400210	1	
ランプASSY	A46100070	1	ランプコイル付 E/G のみ取付可
小径タイヤ	A36000330	1	φ276mm
大径タイヤ	A36000370	1	φ315mm
シタバ	3.0全鋼刃	A70430301	1 先端1.7mm 一般刈高2.5～3.5mm
	3.5全鋼刃	A70430311	1 先端2.0mm 一般刈高3.0～4.0mm
	4.5全鋼刃	A70430281	1 先端2.5mm 一般刈高4.5mm～
	2.5ハイス刃	A70430230	1 先端1.2mm 一般刈高2.0～3.0
	3.0ハイス刃	A70430240	1 先端1.7mm 一般刈高2.5～3.5mm
	3.5ハイス刃	A70430250	1 先端2.0mm 一般刈高3.0～4.0mm
	4.5ハイス刃	A70430260	1 先端2.5mm 一般刈高4.5mm～

* 上記シタバ備考欄の刈高さは、あくまでも目安です。グリーンの状態、アンジュレーションによって若干変わります。

■ 消耗部品

・エンジン関係

名称	部品番号	個数／台	備考
エレメントセット	A12890096	1	エアクリーナ部品
スタータロープ	A12890136	1	リコイルスタータ部品
燃料フィルタ	A12890166	1	燃料タンク部品
スパークプラグ	A12890031	1	BPR2HS

・本機関係

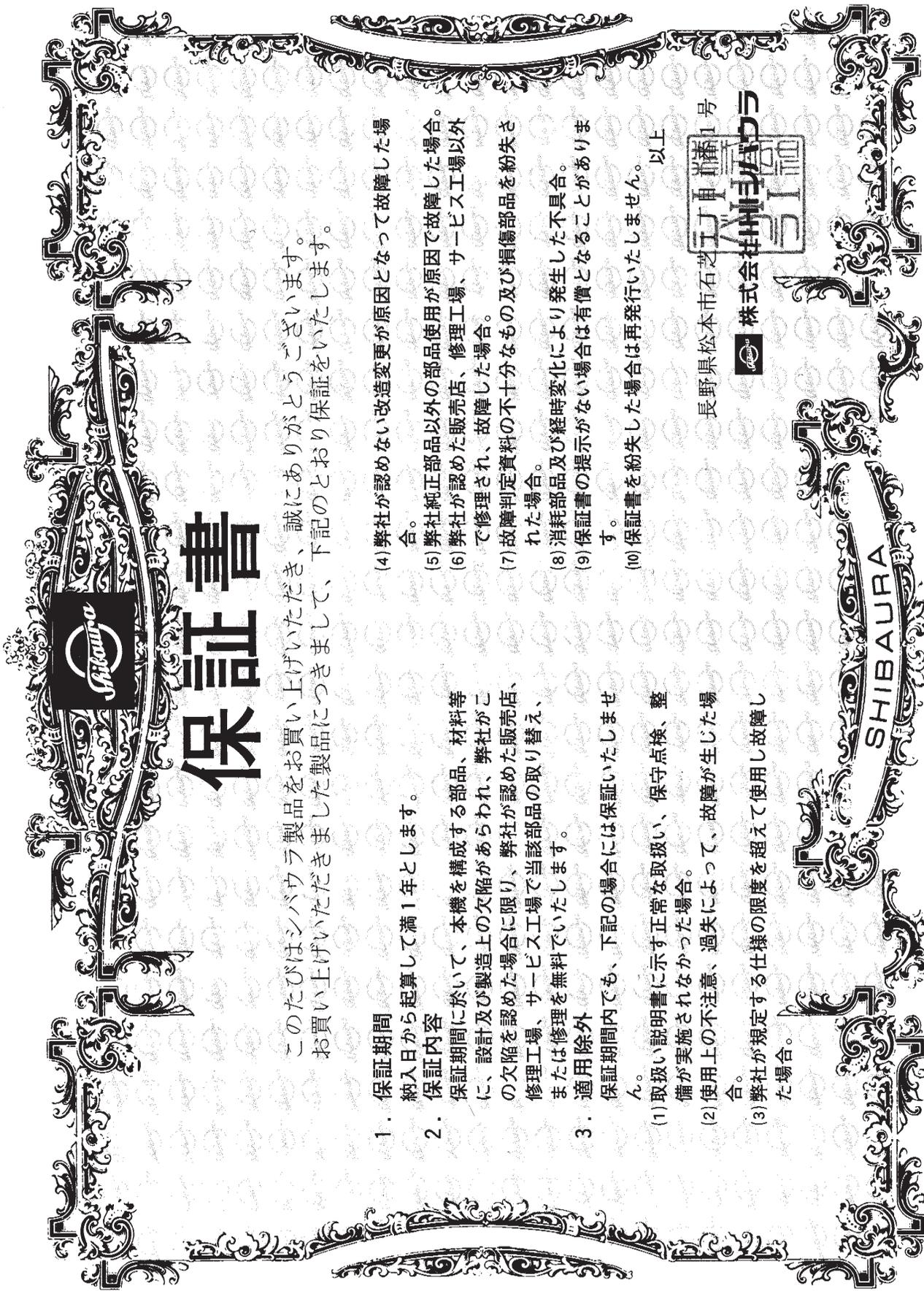
紙パッキン：LR	A22990200	2	フレームカバー部品
クラッチフェーシング	A22890173	1	メインクラッチ部品
ブレーキASSY	A22890185	1	ミッション部品
ゴム	A98120520	2	ハンドル支え部品
スロットルワイヤ	A98230510	1	
メインクラッチワイヤ	A98230890	1	
リールクラッチワイヤ	A98230900	1	
ゴム	A98120780	2	クラッチレバーストップ部品
Vベルト	080420018	2	
ゴム	A98120920	4	ワンタッチ部品

・モア関係

カイトンバ	A70151500	1	
シタバ 2.5全鋼刃	A70430291	1	
Vベルト	080420018	2	

■ 燃料・オイル・グリスについて

給油	種類	給油量 L
燃料	自動車用無鉛ガソリン	2.7
エンジンオイル	10W-30 SE クラス以上	0.6
ミッションオイル	SAE90	0.3
グリス	万能グリス	適量



保証書

このたびはシバウラ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。ご購入いただきました製品につきまして、下記のとおり保証をいたします。

1. 保証期間
納入日から起算して満1年とします。
2. 保証内容
保証期間に於いて、本機を構成する部品、材料等に、設計及び製造上の欠陥があらわれ、弊社がこの欠陥を認められた場合に限り、弊社が認めた販売店、修理工場、サービス工場当該部品の取り替え、または修理を無料でいたします。
3. 適用除外
保証期間内でも、下記の場合には保証いたしません。
(1) 取扱説明書に示す正常な取扱い、保守点検、整備が実施されなかった場合。
(2) 使用上の不注意、過失によって、故障が生じた場合。
(3) 弊社が規定する仕様の限度を超えて使用し故障した場合。

- (4) 弊社が認めない改造変更が原因となって故障した場合。
- (5) 弊社純正部品以外の部品使用が原因で故障した場合。
- (6) 弊社が認めた販売店、修理工場、サービス工場以外で修理され、故障した場合。
- (7) 故障判定資料の不十分なものと及び損傷部品を紛失された場合。
- (8) 消耗部品及び経時変化により発生した不具合。
- (9) 保証書の提示がない場合は有償となることがあります。
- (10) 保証書を紛失した場合は再発行いたしません。

以上

長野県松本市石芝一丁目一番一号



SHIBAURA

—— 記 ——

1. お客様

(1) おところ
(2) おなまえ

Ⓜ

2. 製品名

3. 機番

4. お買い上げ年月日 年 月 日

5. お買い上げ販売店

Ⓜ

修理記録

年月日	修理内容	サービス店	備考

1. 上記項目はお買い上げ先で記入いたします。
2. 記入捺印のない場合は無効です。

3. 保証修理をご請求される場合にはこの保証書を提出願います。